

# 海・街道・史跡を活かしたまちづくりデザイン2015



2015年12月

白子公民館・三重大学都市計画研究室



## はじめに

本報告書は白子公民館と三重大学都市計画研究室との共同研究である「海・街道・史跡を活かしたまちづくりデザイン 2015」の成果を取りまとめたものである。本共同研究は今年度で4年目であり、2012年度には「海・街道・史跡を活かした白子のまちづくりのための92のアイデア集」を取りまとめ、2013年度には、1) まち歩きマップの制作、2) いくつかのアイデアを実験的に実施するためのイベント「白子街道ウォーク 2013」の企画・実施を行い、2014年度には、寺家地区・白子地区・江島地区の景観資源マップを制作した。

今年度は、これらの成果を踏まえた上で、白子地区の将来空間像の共有を図ることを目的とした活動を実施した。具体的には、まちづくり講座にて白子地区のまちの目標イメージ・生活シーン・それを実現化するためのアイデアを整理した上で、空間像について、三重大学建築学科の3年生に提案してもらおうというものである。大学の設計教育を地域に根ざしたものにしていけることが求められている今日、白子まちづくり講座と三重大学の設計課題をジョイントすることにより、相乗効果を狙った取り組みだった。

結果として、白子まちづくり講座で出されたアイデアを全て設計課題にすることは難しく、地区の範囲や課題内容を限定することになったものの、地域住民の意見を反映した設計課題に対して学生の考えも内包しながら白子地区の将来像を描くことができた。「路地を活用した生活共有空間の創出」、「防災広場を核としたコモンスペースの整備」、「街道沿いの建替えモデルの提案」、「職人や芸術家の創作活動の場を地区内に創出」、「白子港が目的地となるような親水空間整備」、「伊達家を歴史交流拠点として整備」、「街道沿いのクランクを交流広場として再整備」など様々な魅力的な提案が出されたわけだが、今後、これらの実現化に向けた取り組みに期待をしたい。また、課題内容には行政による整備ではなく民間（地域住民）主体の整備を主とした。行政に頼るのではなく、まちづくり市民事業により地区の空間改善を計画的に実施していくことが重要だと考えたためである。これらのまちづくり市民事業を支援するような街なみ環境整備事業などを活用しながら、白子地区の空間改善が進むことを期待する。

最後に、本まちづくり講座に参加して頂いた鈴鹿市民の皆さんをはじめとして、本まちづくり講座に関わった全ての皆さんに心から御礼を申し上げたい。

2015年12月

三重大学大学院工学研究科建築学専攻・助教 松浦健治郎

【調査研究組織】

白子公民館 杉谷 哲也 川北 智子 末松 ひとみ

三重大学大学院工学研究科建築学専攻都市計画研究室

総括 松浦 健治郎	三重大学大学院工学研究科建築学専攻・助教
市原 享典	三重大学大学院工学研究科建築学専攻・博士前期課程2年
中島 有紀子	同上
木下 美里	三重大学工学部建築学科・4年
廣澤 祐太	同上
堀江 敬太	同上
橋本 千明	同上

【まちづくり講座参加者（継承略、50音順）】

飯場 道雄	江藤 順子	大河内 康由	岡本 礼子	小川 きぬ	沖 美幸
小嶋 康弘	角谷 弘子	川谷 光代	喜多 常	北村 理	後藤 淑子
斎藤 富茂	城野 高潔	館 日出子	達知 淳三	伊達 久子	土井 千秋
中川 久子	西根 征生	野村 磨梨杏	平田 一道	平野 憲一	平山 健三
松田 徳夫	宮地 壇子	宮原 義治	横田 美喜子	和田 美津子	

(合計 29 名)

オブザーバー : 西野 耕治・中村 麻由 (鈴鹿市都市整備部都市計画課)

協力 (第3回まちづくり講座にて、三重県における官民協働による街道沿いのまちづくり事例の紹介)  
: 山田 純・松本 達平 (三重県県土整備部景観まちづくり課)

【報告書作成】

全体構成・全体編集 : 松浦 健治郎

【海・街道・史跡を活かした白子地区への再編計画】

設計指導: 松浦 健治郎 (出題)・浦山 益郎・浅野 聡 (以上、三重大学工学部建築学科教員)  
阿部 勇貴・福原 涼平・森岡 佳菜 (以上、三重大学工学部建築学科 T A)

提案者 (三重大学工学部建築学科3年生)

柴田 美紀	松野 有希紘	山崎 巧太	大竹 理人	加藤 心彩	川瀬 遼平
伊藤 彰利	内藤 貴之	森山 雅大	東野 一星	唐澤 冨佳	竹内 貴洋
中島 慶介	熊谷 尚輝	近藤 研人	山下 祐輝	安井 翔哉	瀧本 颯
濱口 菓	松島 孝侑	青山 瑤子	平山 進也	村松 研登	

(合計 23 名)

【付録 DVD 製作】

DVD 製作 : 松浦 健治郎  
ナレーション : 橋本 千明

## 目 次

<b>1. まちづくり講座の概要</b> .....	<b>5</b>
(1) 活動経過の概要 .....	7
(2) 第1回まちづくり講座.....	8
(3) 第2回まちづくり講座.....	9
(4) 第3回まちづくり講座.....	16
(5) 検討結果.....	20
(6) 第4回まちづくり講座.....	32
(7) 第5回まちづくり講座.....	33
(8) 第6回まちづくり講座.....	53
(9) 地元展示会.....	55
<b>2. 海・街道・史跡を活かした白子地区への再編計画</b> .....	<b>57</b>
(1) 課題内容の概要 .....	59
(2) 寺家地区.....	65
(3) 白子A地区.....	76
(4) 白子B地区.....	81
(5) 江島A地区.....	90
(6) 江島B地区.....	94





## 1. まちづくり講座の概要





## (1) 活動経過の概要

今年度のまちづくり講座の目的は、昨年度までの取り組みを踏まえて、白子地区の将来の空間像の共有を図るために、まち歩きやデザインワークショップにより、空き家・空き地の活用、伊勢街道の整備と連動した沿道建物のデザインガイドラインの検討などを行うことである。

今年度のまちづくり講座のプログラムを振り返ってみよう(図1)。5月には、昨年度の振り返りとして、昨年度の記録ムービーを観て頂いた後、今年度の活動内容に関するガイダンスを実施した。6月には、白子を3つの地区(寺家・白子・江島)に分けて3つのグループ毎に地区の将来像を検討した。7月には、三重県庁から三重県における官民協働による街道沿いのまちづくり事例の紹介があった後、3つの地区(寺家・白子・江島)のグループに分かれて、前回の検討内容を踏まえた地区計画案に対する修正意見を検討した。この修正意見を基にして、三重大学の製図課題「地区計画～海・街道・史跡を活かした白子地区への再編計画」を作成し、8月には学生の現地説明会を実施した。9月には伊達家とヒロモリ家の実測調査ワークショップを行い、断面図や立面図を学生が作図した。10月には三重大学レーモンドホールにて学生提案の中間講評会が開催され、12月には鈴鹿市役所にて地元発表会・地元展示会が開催された。

まちづくり講座の参加者の内訳は、公民館を利用する地域住民、三重県職員、鈴鹿市職員などで合計約30名である。

2015年							
5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
● 5/21 第1回まちづくり講座 ・昨年度の振り返り ・今年度の取り組みのガイダンス	● 6/18 第2回まちづくり講座 ・地区の将来像を考えるその1	● 7/2 第3回まちづくり講座 ・地区の将来像を考えるその2	● 8/7 第4回まちづくり講座 ・学生の現地説明会	● 9/18 伊達家・ヒロモリ家の実測調査WS		● 10/31 第5回まちづくり講座 ・中間講評会	● 12/8 第6回まちづくり講座 ・地元発表会
						12/9-13 地元展示会	報告書の作成

図1：白子まちづくり講座のスケジュール

## (2) 第1回まちづくり講座

日時：2015年5月21日(木)14:00～16:00

場所：白子公民館

内容：昨年度の振り返り、今年度の取り組みのガイダンス

参加者数：29名

まちづくり講座の概要:まず、昨年度の振り返りについて、「白子まちづくり講座 2014 の記録」活動紹介ムービーの上映があった。その後、松浦助教より今年度の取り組みのガイダンスがあった。

### 第1回まちづくり講座の風景写真



### (3) 第2回まちづくり講座

日時：2015年6月18日(木)14:00～16:00

場所：白子公民館

内容：地区の将来像を考える～その1

参加者数：30名

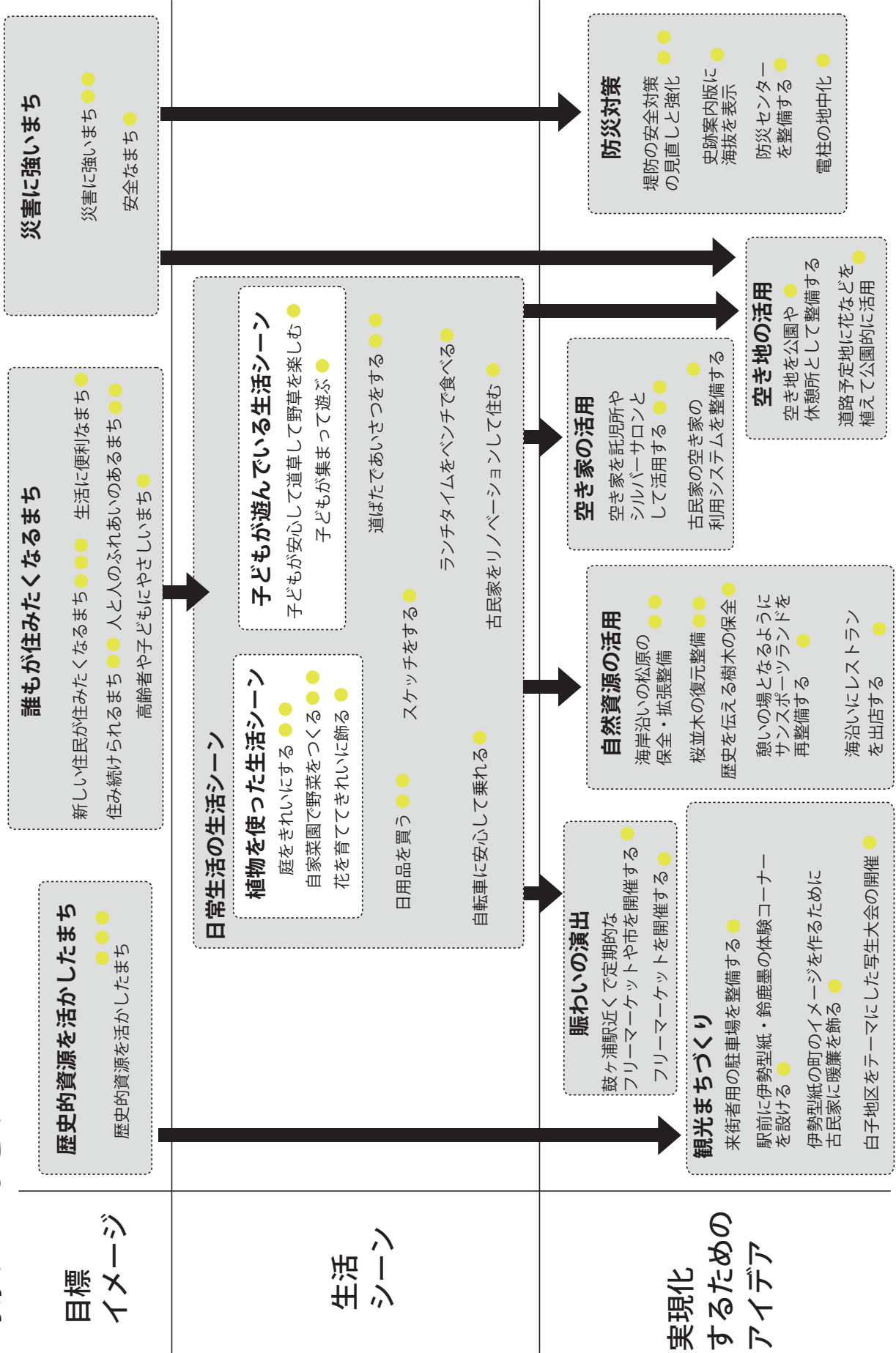
**まちづくり講座の概要：**3地区（寺家・白子・江島）のグループに分かれて地区の将来像を検討した。具体的には、まず、2012年度のまちづくり講座の結果を踏まえて、まちの魅力・問題点を整理した。次に、「生活シーンカード」や「目標イメージカード」を用いて将来像のまちで希望する生活シーンやまちづくりの目標を検討した。その後、目標像を達成するための具体的な提案イメージを2012年度に製作した「まちづくりアイデアカード」を参考にしながら検討した。最後にグループ毎の全体発表が行われた。

#### 第2回まちづくり講座の風景写真



寺家地区チームの検討結果

寺家チームまとめ (2015.6.18 取りまとめ：松浦健治郎)



＜空き家の活用＞

- ・ 空き家（北村邸）を地域施設

（用途を要検討）

としてコンバージョン

＜空き地の活用＞

- ・ 空き地を多様な世帯が居住可能な集合住宅＋緑道に

＜路地の整備＞

- ・ 拡幅すべき路地 4m
- ・ 保全すべき路地 2.7m
- ・ 学生に提案してもらおう？

＜来街者用駐車場＞

- ・ 現在は空き地？

＜海岸沿いの堤防道路＞

- ・ 堤防の強化
- ・ サイクリングロード、散策路として整備



＜駅前拠点の整備＞

- ・ どのような用途の建物が  
必要か？：検討必要
- ・ 郵便局、様々なイベント等に  
利用できる多目的  
スペースなど

＜参道空間の整備＞

- ・ 子安観音寺前の参道沿いの  
デザインガイド作成
- ・ 街路整備

脱色アスファルト舗装

電柱の地中化

案内看板（地図）の設置

→他にあるか？

＜未利用道路空間の活用＞

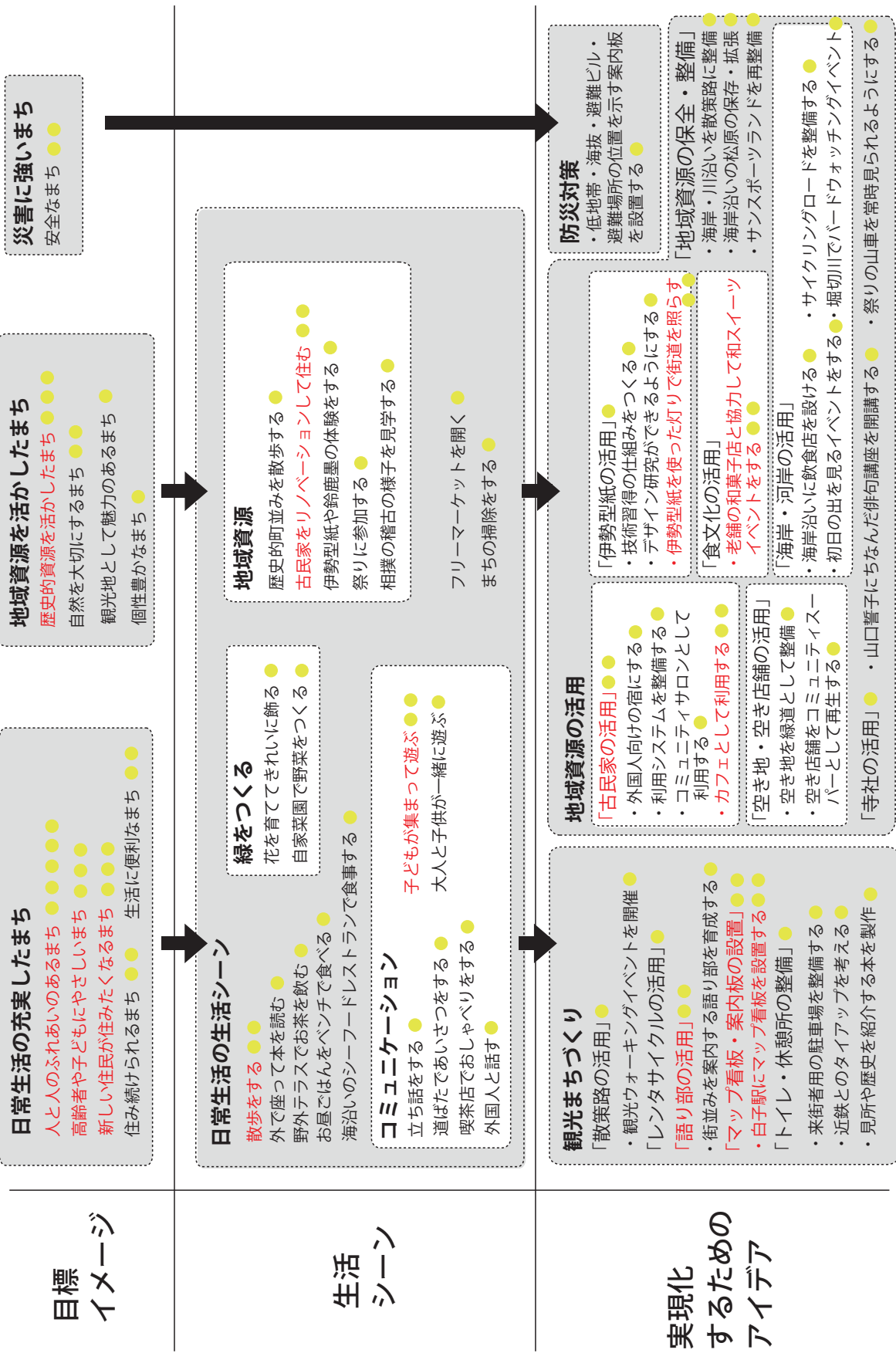
- ・ 都市計画道路未開通  
のため、使用されて  
いない道路を暫定的  
に公園として活用

- ：まちかど博物館
- ：旧伊勢街道
- ：海・川・水路など
- ：神社
- ：公園・緑地
- ：教育施設・その他の公共施設

寺家地区提案マップ

白子地区チームの検討結果

白子チームまとめ (2015.6.18 取りまとめ：市原享典)



<駅前顔づくり>

- ・駅前前開発
- 例) 街の入り口として  
駅前広場  
マップ看板設置

学生に提案をもらおう？

- ・商店街のコンバーション
- 例) カフェ  
コミュニティサロン

利用可能な商店はある？

<街道の整備>

- ・街道の街路デザイン
- 例) 道路舗装  
伊勢型紙の灯り
- ・道路舗装
- ・電柱の地中化
- ・沿道の建物のデザインガイドライン

<海沿いの街整備>  
「白子港」

- ・海沿いの飲食店設置
- 例) 地産地消レストラン
- ・散策路・サイクリングロードの整備

・港との関係性は？

<休憩所・トイレの設置>

- ・散策ルート途中に必要
- ・設置可能なのはどこ？

白子地区提案マップ

<来街者用駐車場>

- ・観光客等のための駐車場を設置
- ・どこが適切？

<低地住宅地対策>

- ・津波による大きな被害が予想される住宅地対策
- 例) 移住用集合住宅

<空き家のリノベーション>

- ・おもちゃの店
- 「ヒロモリ」をリノベーション
- (Blnc-co協力)
- ・用途を要検討

<海岸沿いの道路整備>

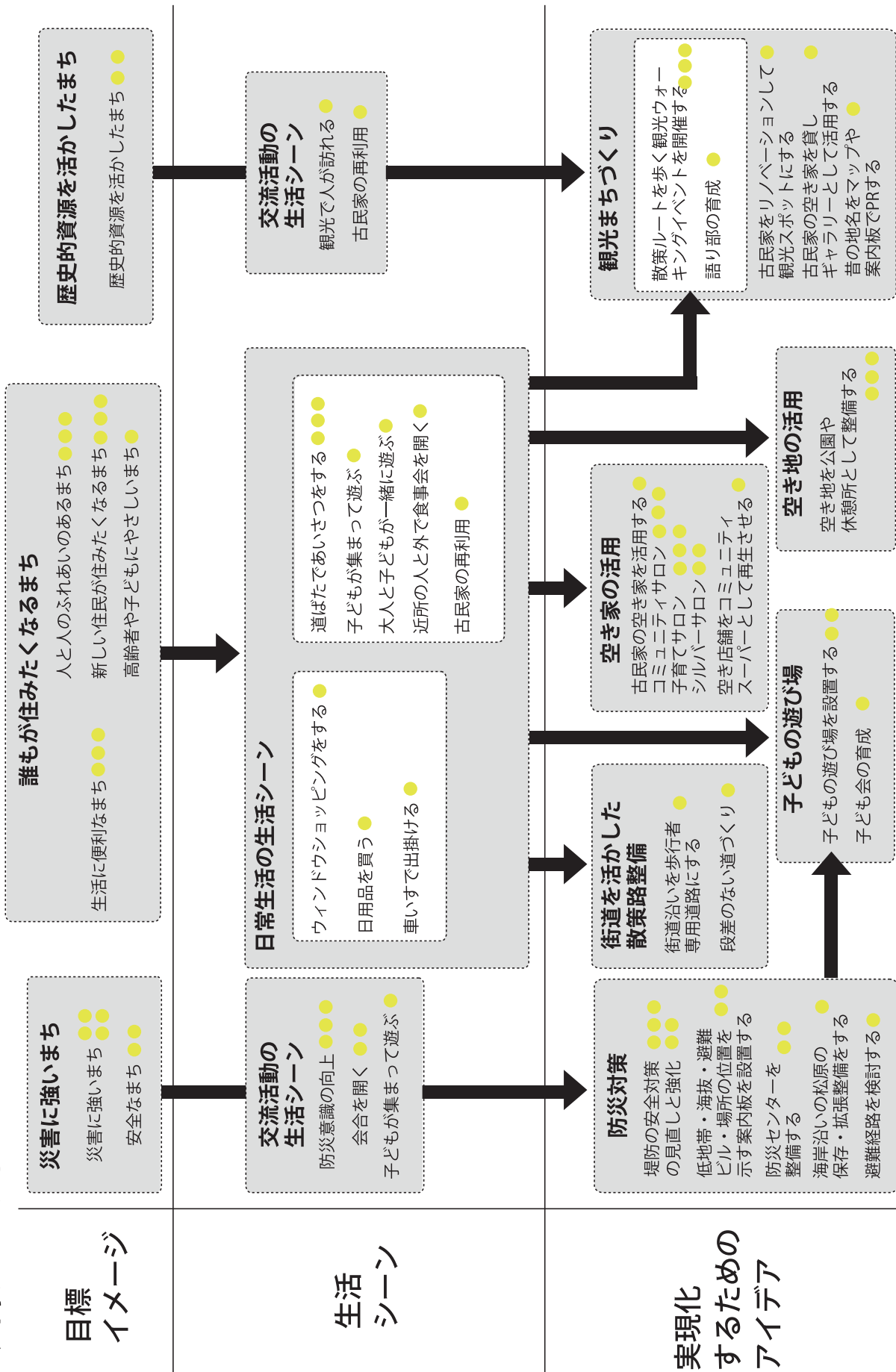
- ・散策路・サイクリングロードの整備
- ・車通り多い
- 交通規制必要か？



歴：歴史的資源（裏に解説あり）  
 文：文化的資源（裏に解説あり）  
 自：自然的資源（裏に解説あり）  
 ☆：その他の地域資源  
 □：立て札（鈴鹿市50周年記念）  
 冊：トイレ  
 P：駐車場  
 黒：まちかど博物館  
 赤：旧伊勢街道  
 青：海・川・水路など  
 緑：公園・緑地  
 白：教育施設・その他の公共施設

江島地区チームの検討結果

江島チームまとめ (2015.6.18 取りまとめ：中島有紀子)





<元スーパーマーケットの活用>

- 元スーパーマーケットと駐車場を  
山車の展示場や公園として建て直し

<紀州藩と小笠原領境界の複周辺の整備>

- ランドスケープデザインの検討
- 元旅館のコンバージョン (用途を要検討・大家の協力必要)

<県道6号線&伊勢街道全体>

- 伊勢街道の街路デザイン及び  
沿道建築のデザインガイドラインを検討



<六体地藏周辺地区>

- 地藏盆の舞台となるような  
街路空間のデザイン  
(例：伊勢街道の曲折地帯)
- 沿道建築のデザインガイド  
ラインを検討

<浸水危険地帯住宅の移動>

- 浸水の危険がある地帯の  
住宅を微高地の伊勢街道  
沿いに移転 (長期的な計画)

<朝市の会場>

- 常夜燈、八幡神社との  
関係を検討した  
屋外空間のデザイン
- 半屋外空間の設計

- ：まちかど博物館
- ：旧伊勢街道
- ：海・川・水路など
- ：寺社
- ：公園・緑地
- ：教育施設・その他の公共施設

<伊達家と鋳絵のあるゾーンの再整備>

- 空き家 (伊達家) のコンバージョン (用途を要検討)
- 空き家 (鋳絵のある家) のコンバージョン (用途を要検討)
- 長屋とアパートを集合住宅などに建て直す街並みづくり
- 伊勢街道沿い建築のデザインガイド、街路整備

<松並木の保全と歩道整備>

- 松並木の保全活動
- 段差のない歩道に整備

<海岸沿いの堤防道路>

- 堤防の強化
- 防災案内板の設置

江島地区提案マップ

## (4) 第3回まちづくり講座

日時：2015年7月2日(木)14:00～16:00

場所：白子公民館

内容：地区の将来像を考える～その2

参加者数：26名

**まちづくり講座の概要：**前回に引き続き、3地区の将来像を検討した。まず、前回の検討結果を踏まえて3地区の地区計画の素案が発表された。次に、三重県庁から三重県における官民協働による街道沿いのまちづくり事例の紹介があった。その後、3地区のグループに分かれて、地区計画の素案に対する修正意見を検討した。最後にグループ毎の全体発表が行われた。

### 第3回まちづくり講座の風景写真



## 寺家チーム検討結果

## &lt;路地の整備について&gt;

・路地の整備は難しい(補償費等必要)

・空き地の整備と連動した道路の整備は可能(モデルとしての位置づけ)

・整備に時間がかかる。

・地域住民の意識を変えることが必要

・救急車や消防車が入れないと困る

## &lt;子安観音寺前の参道空間について&gt;

・各家の屋号を付けてはどうか?

・道路の色を工夫する

・参道沿いの玄関にイベント時に型紙デザインの暖簾をかけてはどうか?

## &lt;駅前拠点について&gt;

・白子駅と連動して、レンタサイクルステーションを設置してはどうか?

・駅の利用者数はそれほど多くないため、駅前に拠点を整備する必要があるのか?

現在の1日の平均乗車人員:524人  
(2013年度、降車客含まず、三重県統計書より)  
<参考>白子駅:7,845人、近鉄津駅:15,171人、近鉄四日市駅:21,686人

・昔は海水浴シーズンになると臨時急行が駅に停車し、関西や名古屋から多くの海水浴客が鼓ヶ浦駅を訪れていた。

## &lt;海岸沿いの堤防について&gt;

・堤防強化の際に歩行者レーン・自転車レーン・自動車レーンに分けてもらいたい(道路幅員を広げる)

## 白子チーム検討結果

### <地区全体：防災>

- ・避難看板を多く、大きく

### <駅前の顔づくり>

- ・待ち合わせ空間が必要（雨に濡れない） ex) カフェ、ブラウジング（読書）
- ・レンタサイクル屋を設ける
- ・駅利用者など地域住民用の駐車場を設ける
- ・ショッピングセンター機能を持たせたい
- ・空き地を利用 ex) 集合住宅（高層も可能）
- ・線路で分断された駅前の東西をつなぎたい
- ・駅と複合した（線路上の）店舗街をつくる（それに伴ってエスカレーターやエレベーターの充実？）
- ・市内巡回バスの充実（1日に1本博物館行きのものが欲しい）

### <空き家のリノベーション>

- ・「ヒロモリ」は長い間倉庫として利用されており、現在地域に定着している用途はない  
→ おもちゃ屋としては定着していない
- ・総合プロデュースが必要  
→ 現在抱える問題の解決につなげる必要がある  
ex) リノベーション方法の体系づくりから行う  
道路境界線からのセットバック、駐車場の設け方など

### <海沿いの街整備：「白子港」>

- ・海船店舗：夜舟で海に出て海側、街側両方の夜景を楽しむ

### <街道等の道路整備>

- ・明るい色調の道路舗装を採用する
- ・現在の車両通行状況に適合した道路整備

### <街道沿いの店舗>

- ・おもちゃ屋、駄菓子屋、飲食店

### <来街者用駐車場>

- ・店舗ごと、複数の住居単位ごとに駐車場が必要  
→ 路上駐車が多く交通を妨げる
- ・駐車場にアクセスする道路の幅員が狭い

### <海岸沿いの道路整備>

- ・現在ある堤防を強化する  
→ 整備の行き届いていない部分が多々ある

## 江島チーム検討結果

## &lt;空き家・空き地の整備について&gt;

・勝速日神社の向かいはマックスバリューの  
研修セミナーとして利用されている（土日休み）  
⇒イベント広場にするのは難しい？

・紀州藩と小笠原領地の境界の榎周辺の畑は使われており  
駐車場は寿善寺の敷地である  
⇒整備する必要はないと思われる

・旅館たる安の大家が分からないが建物の再利用については賛成

## &lt;伊勢街道沿いの整備について&gt;

・地藏盆に合わせて行灯まつりを行いたい

## &lt;防災的な計画について&gt;

・地区内での住宅地移動は難しい

## &lt;伊達家について&gt;

・伊達家はコミュニティサロンとして利用したい  
シルバーサロン  
子育てサロン  
イベント会場  
ギャラリー

・今までのイベントと利用予定のイベント  
英語落語（7 / 19）  
演奏会（近鉄）  
ひなまつり  
街道ウォーク

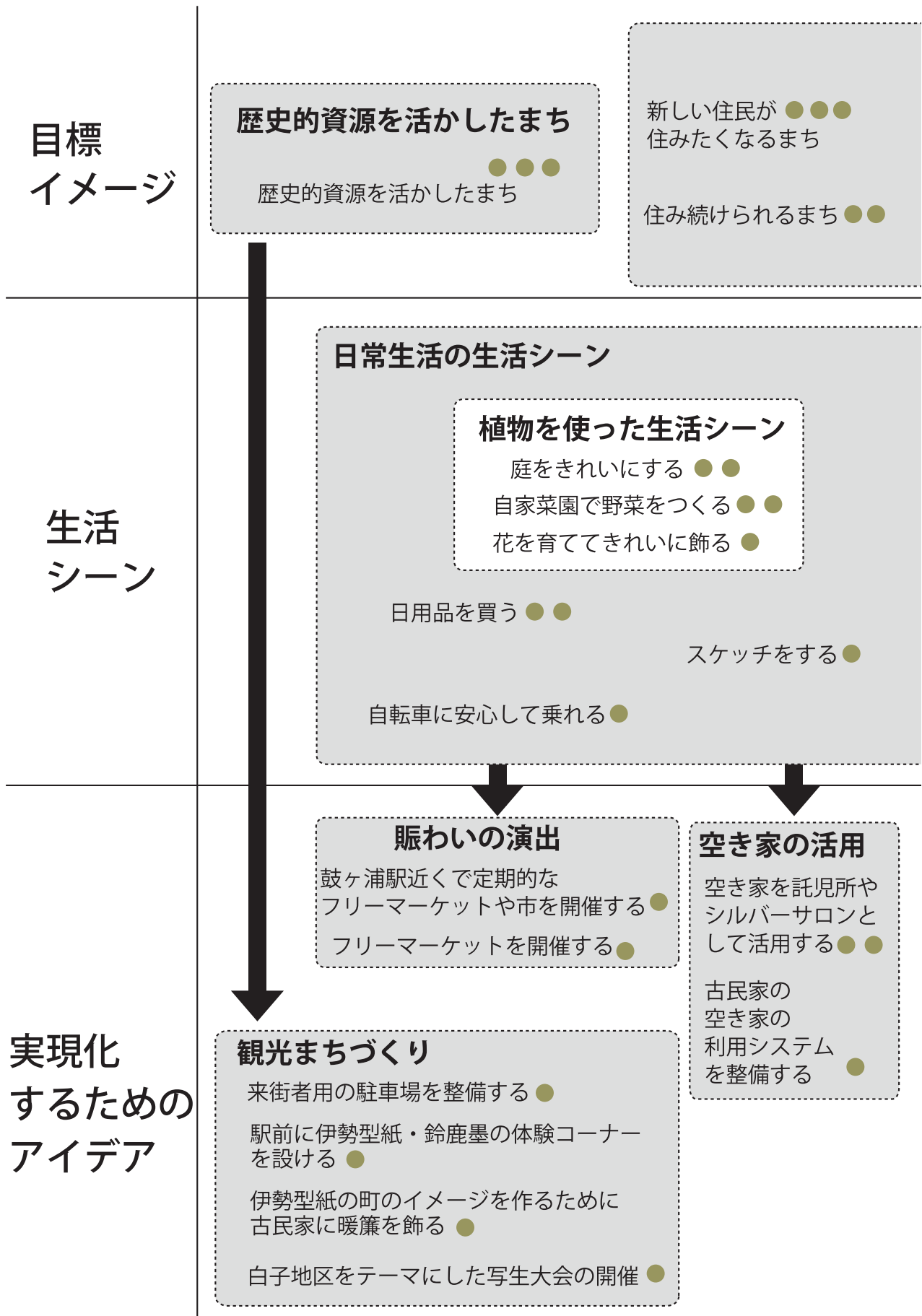
・耐震診断を受けたが8～9割のリフォームが必要  
+上下水道・炊事の追加  
+建具の補修 が必要

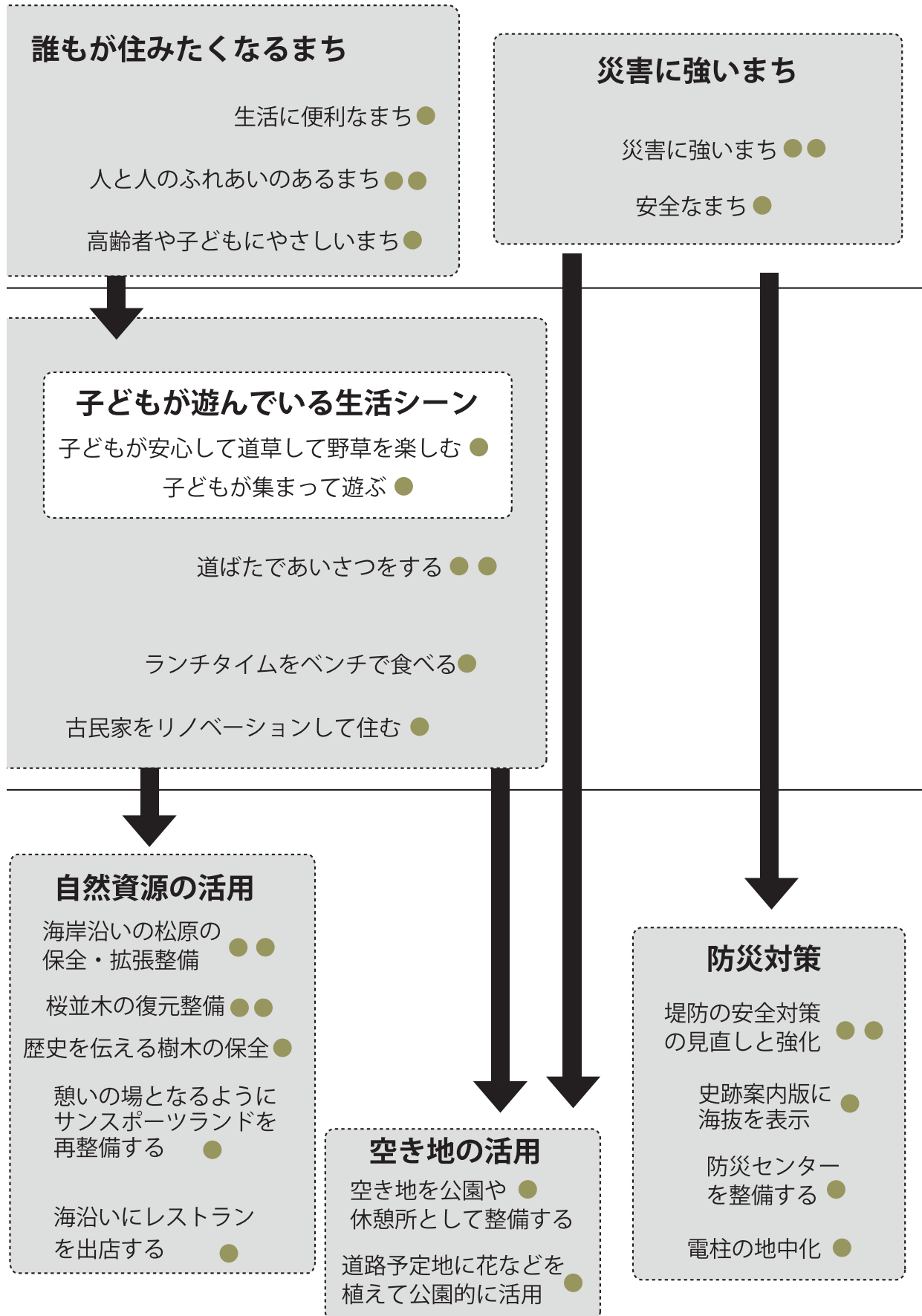
・伊達家の管理人をどうするか？

管理人 — E — シルバーサロン代表者  
子育てサロン代表者  
イベント会場代表者  
ギャラリー代表者

## (5) 検討結果

### 1) 寺家地区





### <空き家の活用>

- ・空き家（北村邸）を地域施設（用途を要検討）としてコンバージョン



### <空き地の活用>

- ・空き地を多様な世帯が居住可能な集合住宅+緑道に

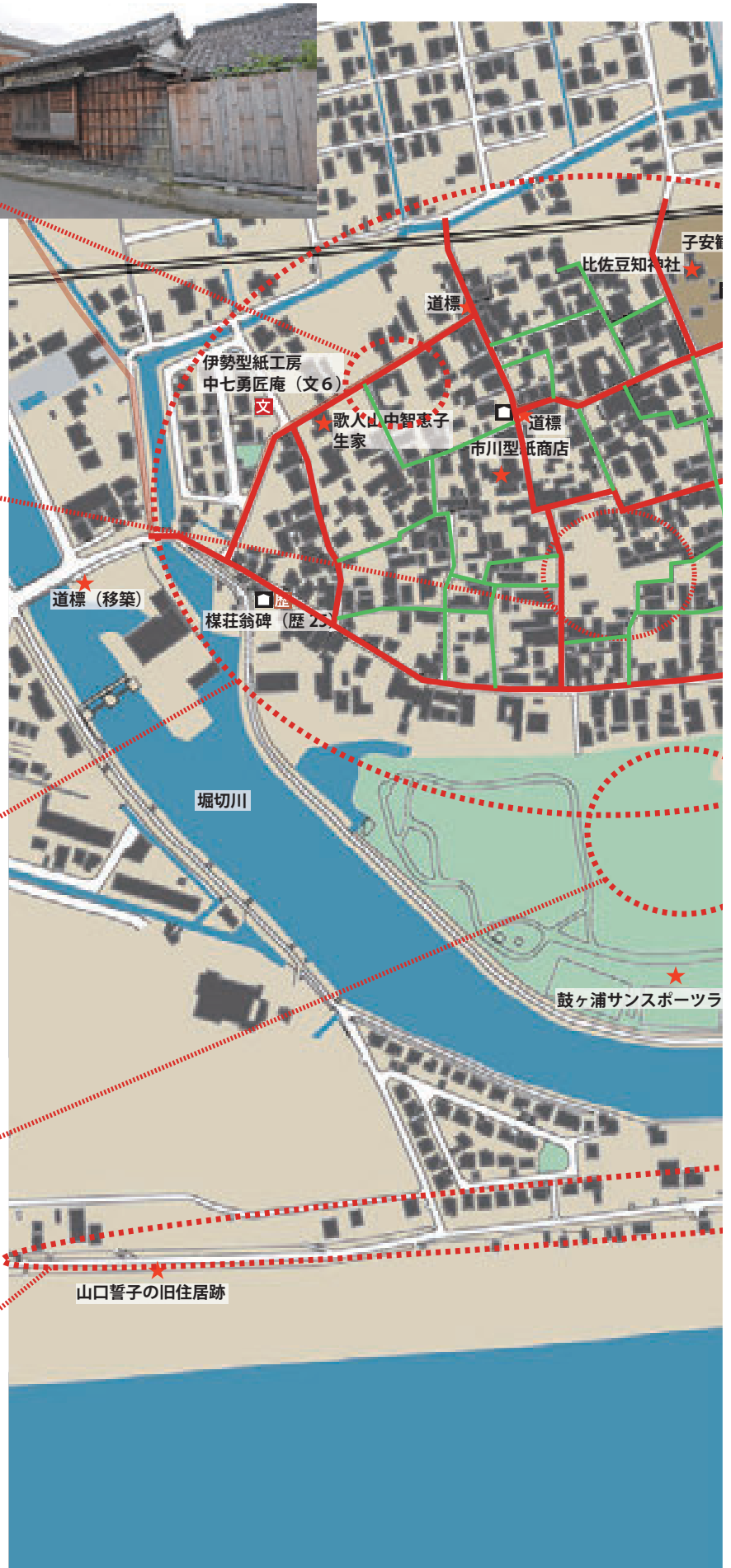
### <路地の整備>

- ・拡幅すべき路地 4 m
- ・保全すべき路地 2.7m
- ・地域住民の意識を啓発する必要あり
- ・路地を保全する場合、防災広場を整備するなどの代替案が必要

### <来街者用駐車場>

### <海岸沿いの堤防道路>

- ・堤防の強化
- ・サイクリングロード、散策路として整備





### <駅前拠点の整備>

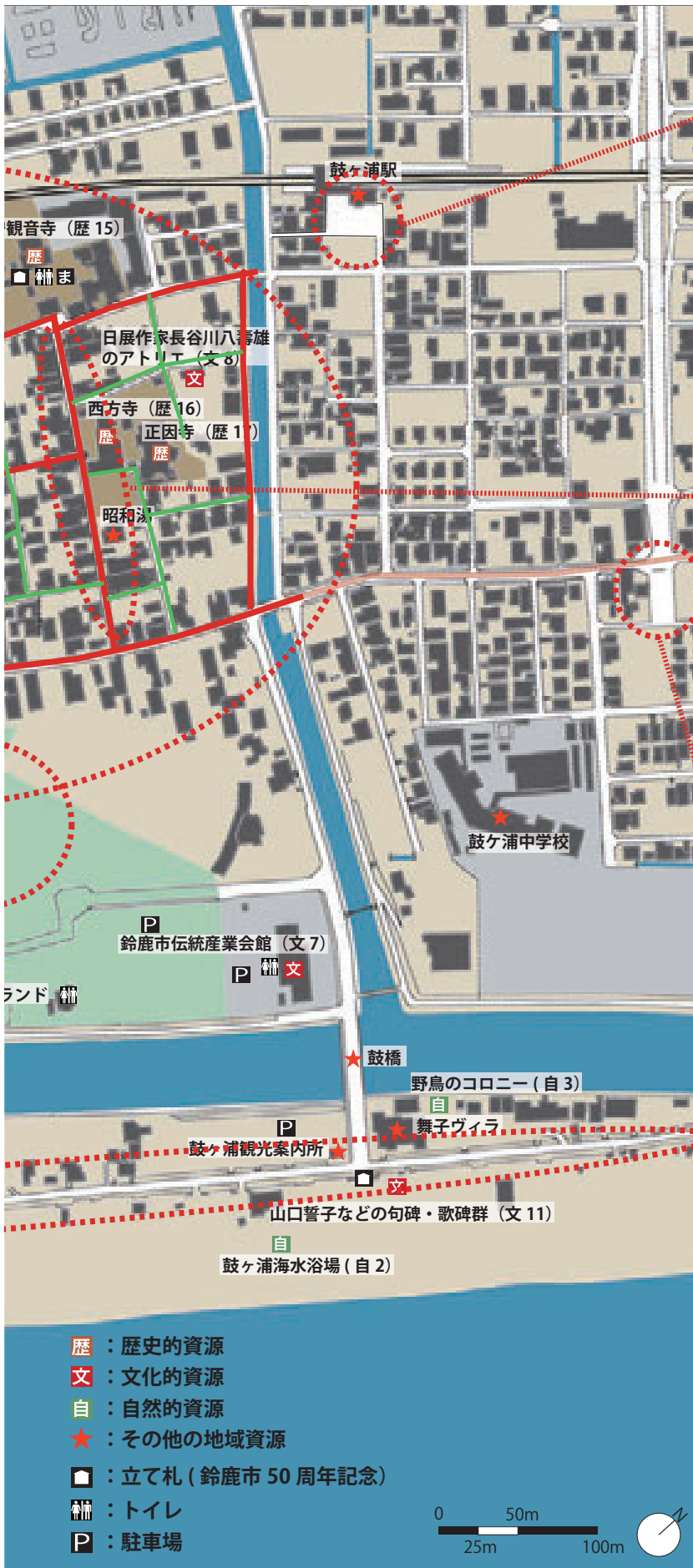
- ・白子駅と連携して  
レンタサイクルステーション  
を設置する
- ・郵便局、様々なイベント等  
に利用できる多目的  
スペースなど

### <参道空間の整備>

- ・子安観音寺前の参道沿いの  
デザインガイド作成
- ・街路整備  
脱色アスファルト舗装  
電柱の地中化  
案内看板（地図）の設置
- ・各家の屋号を付ける。
- ・イベント時に沿道の建物に  
伊勢型紙の模様が入った  
暖簾をかけてもらう

### <未利用道路空間の活用>

- ・都市計画道路未開通  
のため、使用されて  
いない道路を暫定的  
に公園として活用



☒ : まちかど博物館

— : 旧伊勢街道

■ : 海・川・水路など

■ : 寺社

■ : 公園・緑地

■ : 教育施設・その他の公共施設

歴 : 歴史的資源

文 : 文化的資源

自 : 自然的資源

★ : その他の地域資源

■ : 立て札 (鈴鹿市 50 周年記念)

■ : トイレ

P : 駐車場

## 寺家地区提案マップ

2) 白子地区

目標  
イメージ

日常生活の充実したまち

- 人と人のふれあいのあるまち ●●●●●
- 高齢者や子どもにやさしいまち ●●●
- 新しい住民が住みたくなるまち ●●●
- 住み続けられるまち ●● 生活に便利なまち ●●

生活  
シーン

日常生活の生活シーン

- 散歩をする ●●
- 外で座って本を読む ●
- 野外テラスでお茶を飲む ●
- お昼ごはんをベンチで食べる ●
- 海沿いのシーフードレストランで食事する ●

緑をつくる

- 花を育ててきれいに飾る ●
- 自家菜園で野菜をつくる ●

コミュニケーション

- 立ち話をする ●
- 道ばたであいさつをする ●
- 喫茶店でおしゃべりをする ●
- 外国人と話す ●
- 子どもが集まって遊ぶ ●●
- 大人と子供と一緒に遊ぶ ●

実現化  
するための  
アイデア

観光まちづくり

- 散策路の活用 ●
- 観光ウォーキングイベントを開催 ●
- レンタサイクルの活用 ●
- 語り部の活用 ●●
- 街並みを案内する語り部を育成する ●
- マップ看板・案内板の設置 ●●
- 白子駅にマップ看板を設置する ●●
- トイレ・休憩所の整備 ●
- 来街者用の駐車場を整備 ●
- 近鉄とのタイアップを考える ●
- 見所や歴史を紹介する本を製作 ●

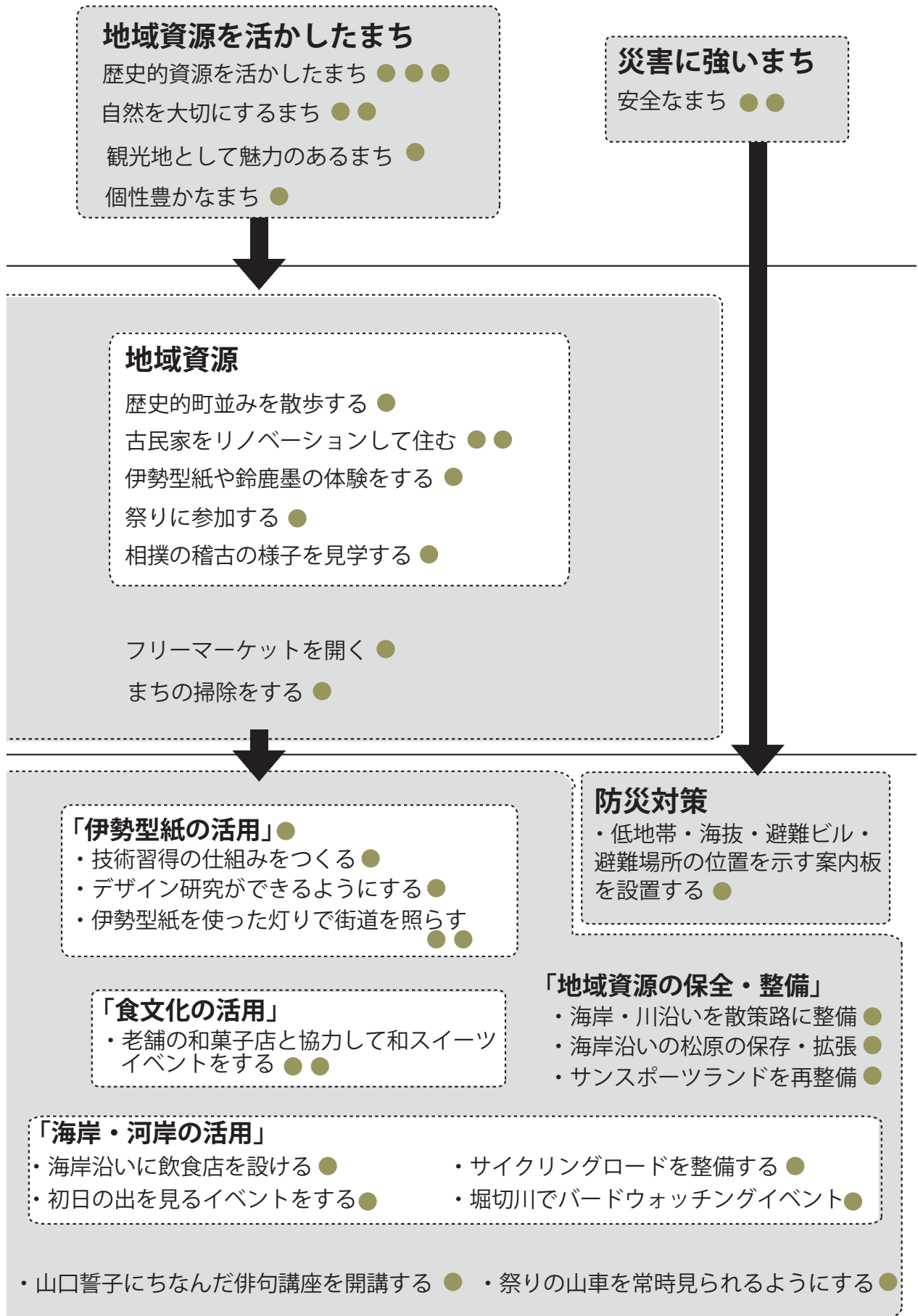
地域資源の活用

- 古民家の活用 ●●
- 外国人向けの宿にする ●
- 利用システムを整備する ●
- コミュニティサロンとして利用する ●
- カフェとして利用する ●●

「空き地・空き店舗の活用」

- 空き地を緑道として整備 ●
- 空き店舗をコミュニティスーパーとして再生 ●

- 「寺社の活用」 ●



## <地区全体>

・避難看板を大きく多く設置

### <来街者用駐車場>

- ・地域住民及び観光客等のための駐車場を整備

### <低地住宅地対策>

- ・津波による大きな被害が予想される住宅地対策  
例) 移住用集合住宅

### <空き家のリノベーション>

- ・おもちゃの店「ヒロモリ」をリノベーション (Blanc-co 協力)

### <海岸沿いの道路整備>

- ・散策路・サイクリングロードの整備
- ・津波対策のための堤防の強化と連動



## <駅前の顔づくり>

- ・ 駅東口前開発
- ・ 街の入り口として駅前広場
- ・ マップ看板設置
- ・ 商店街のコンバージョン
- ・ 待ち合わせができるカフェ
- ・ コミュニティサロン
- ・ レンタサイクル

## <街道の整備>

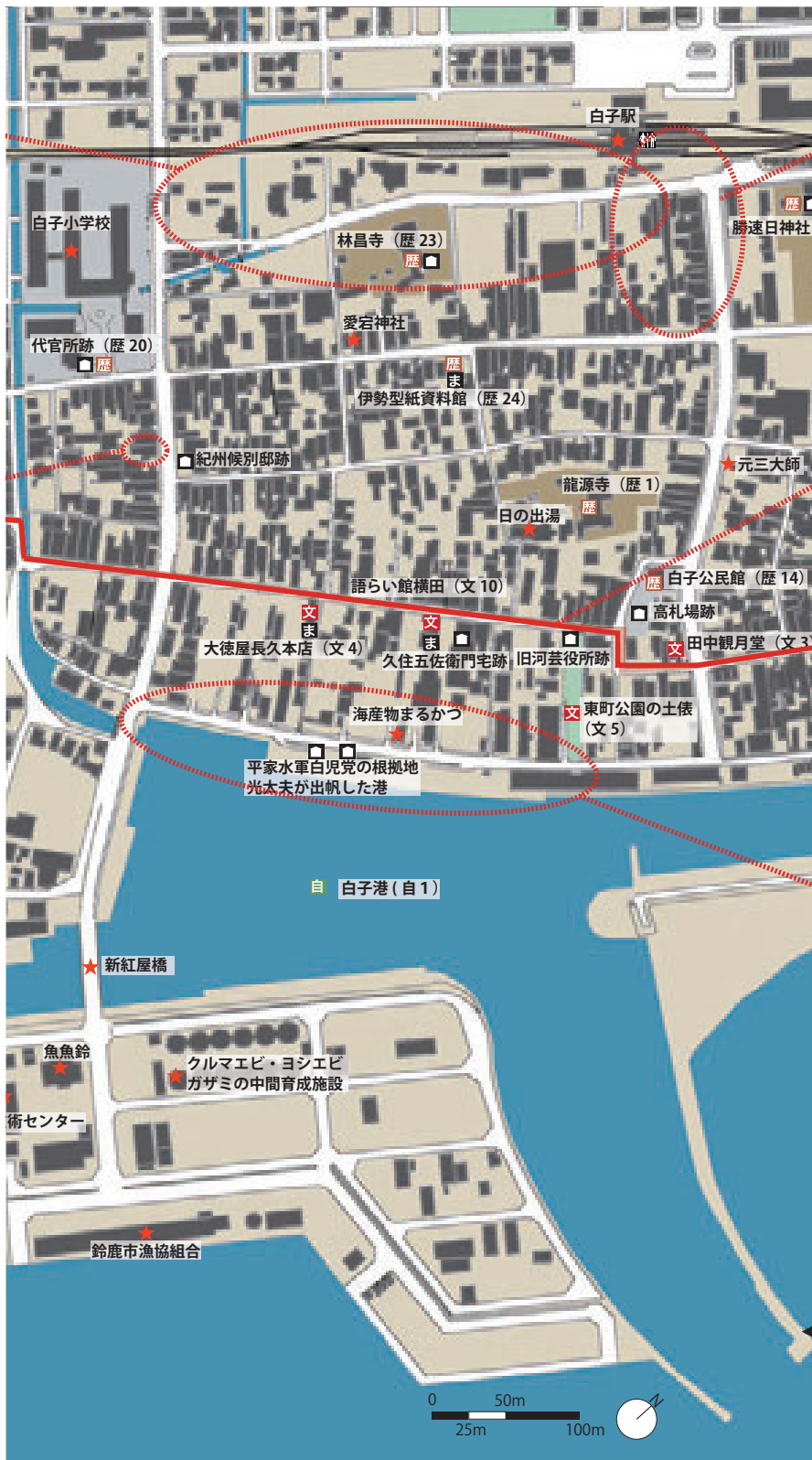
- ・ 街道の街路デザイン  
例) 道路舗装  
伊勢型紙の灯り
- ・ 道路舗装
- ・ 電柱の地中化
- ・ 沿道の建物のデザイン  
ガイドライン

## <海沿いの整備> 「白子港」

- ・ 海沿いの飲食店の整備  
例) 地産地消レストラン
- ・ ナイトクルージングの運航
- ・ 散策路・サイクリング  
ロードの整備

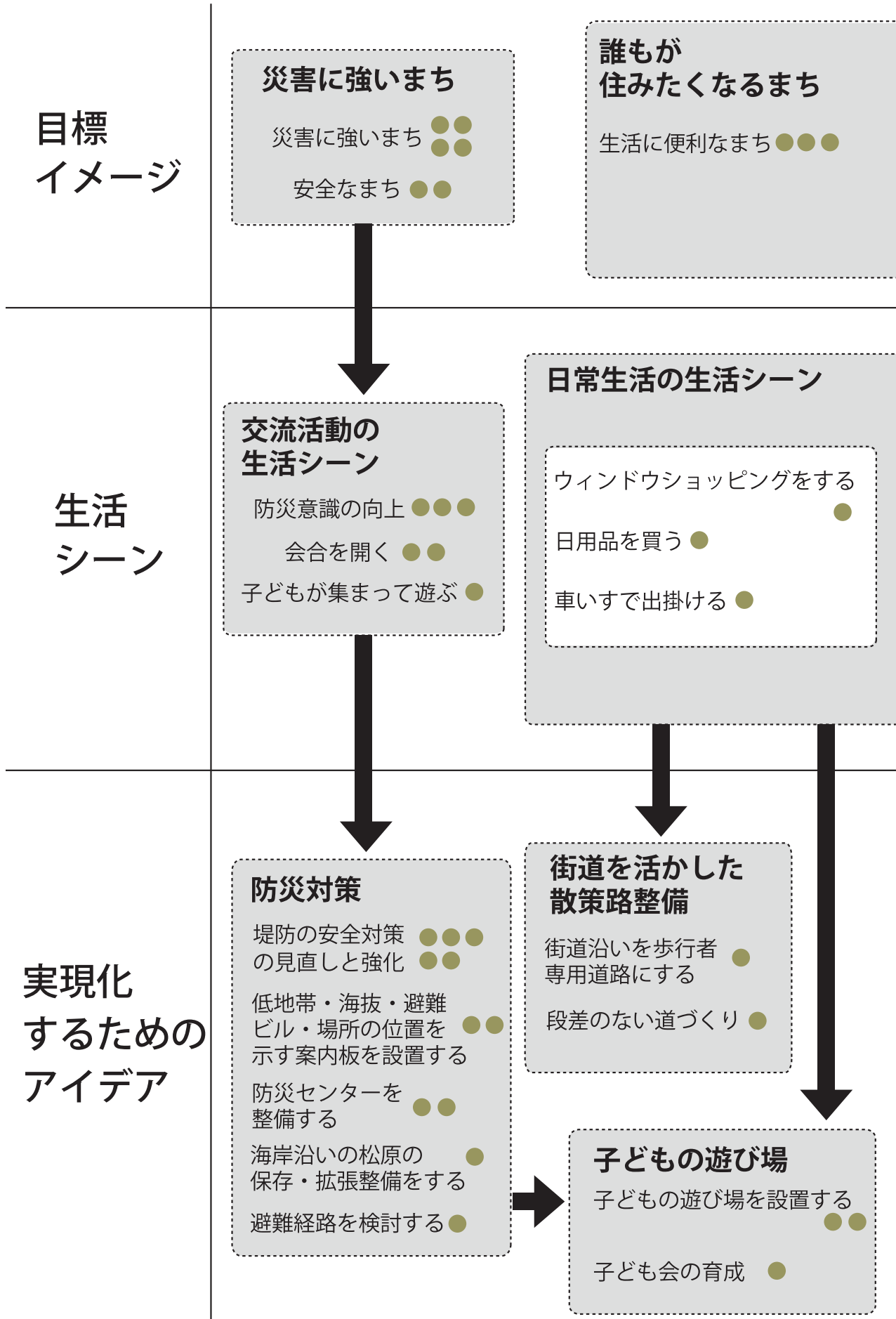
## <休憩所・トイレの設置>

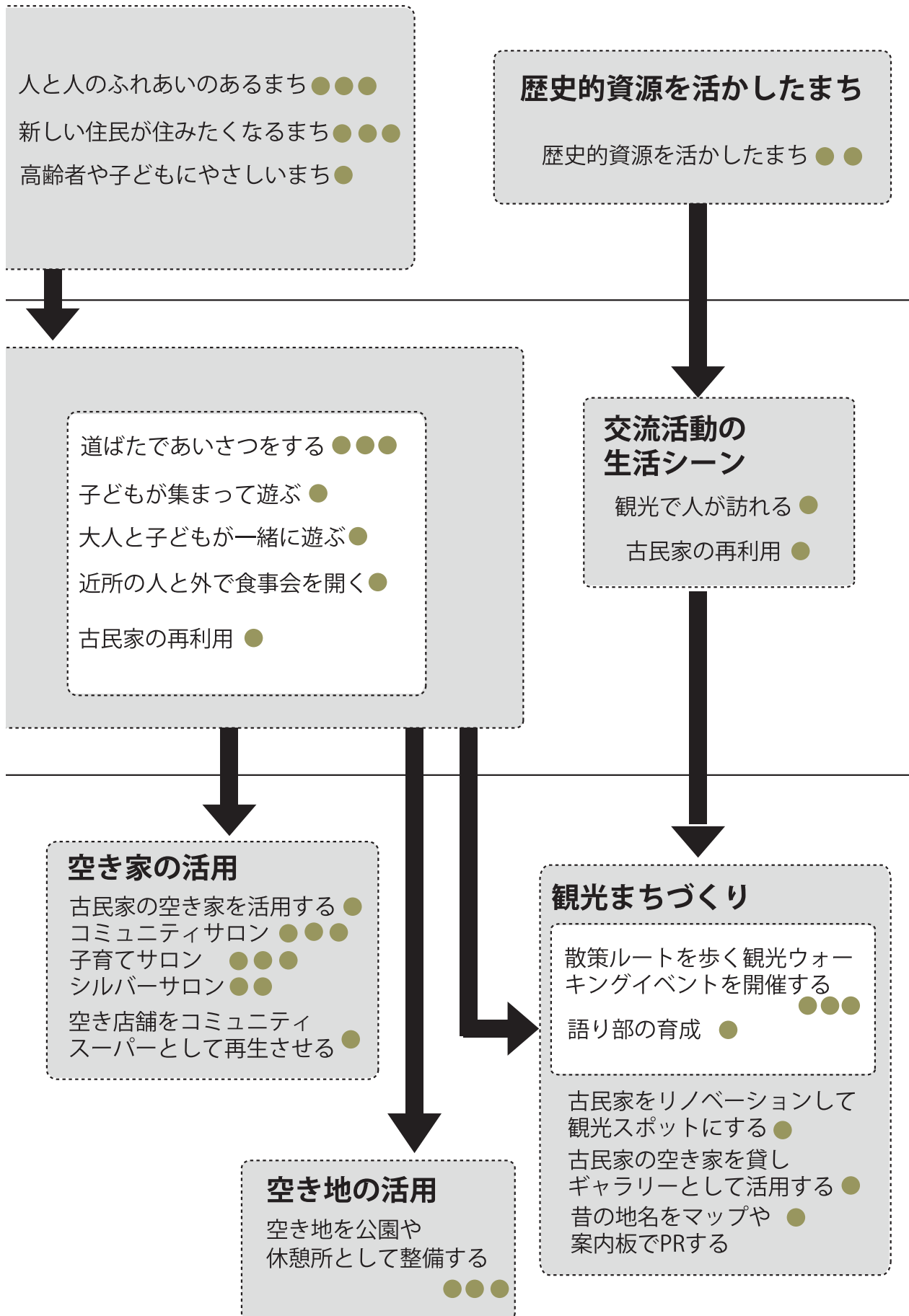
- ・ 散策ルート途中に必要



# 白子地区提案マップ

3) 江島地区



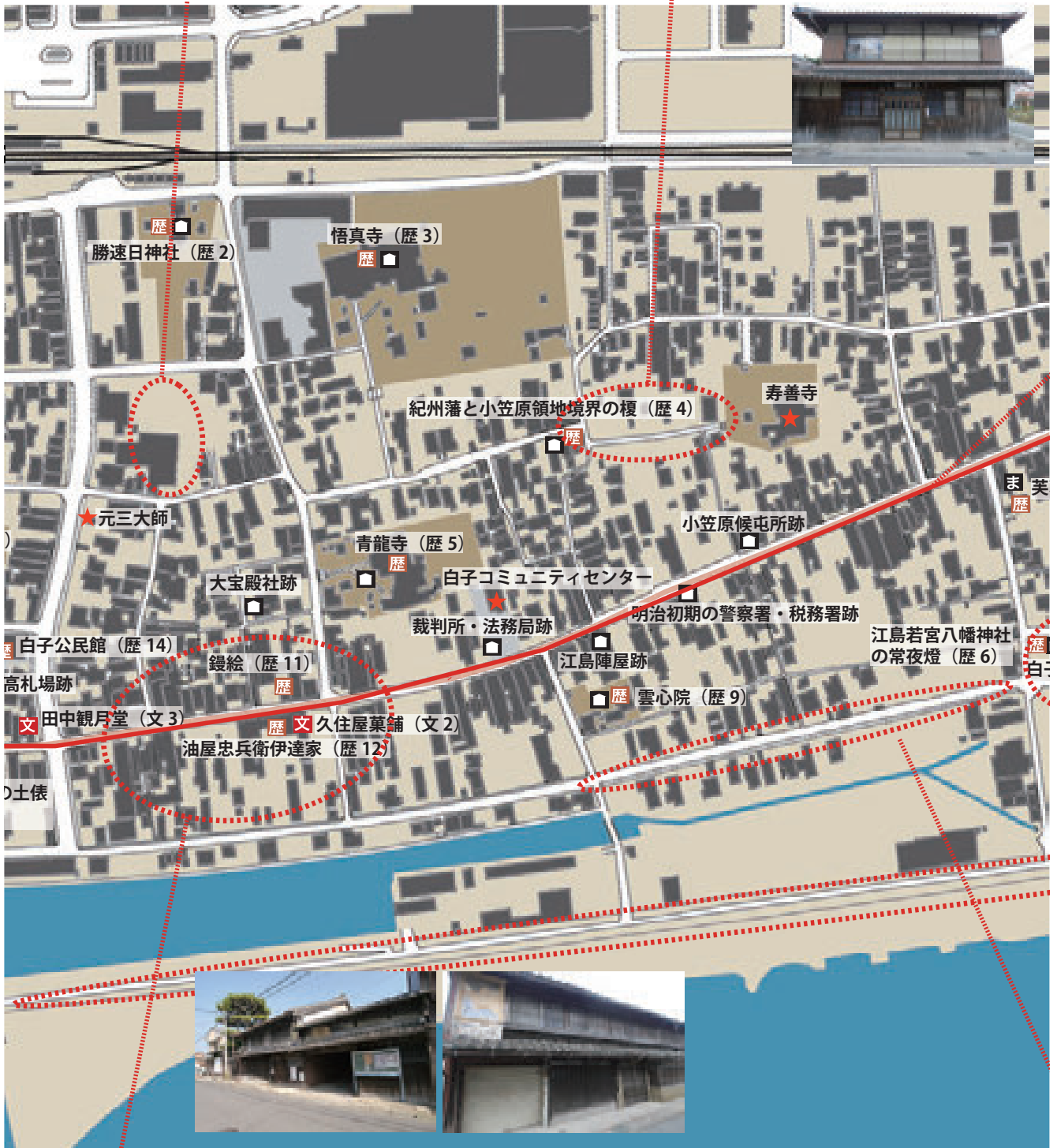


## ＜元スーパーマーケットの活用＞

- ・元スーパーマーケットと駐車場をイベント広場として再整備

## ＜紀州藩と小笠原領地境界の榎周辺の整備＞

- ・ランドスケープデザインの検討
- ・元旅館のコンバージョン



## ＜伊達家と鏡絵のあるゾーンの再整備＞

- ・空き家（伊達家）のコンバージョン（「まちの駅」として活用）、耐震改修
- ・長屋とアパートを集合住宅などに建て直す街並みづくり
- ・伊勢街道沿い建築のデザインガイド、街路整備



## <県道6号線&伊勢街道全体>

- ・伊勢街道の街路デザイン及び沿道建築のデザインガイドラインを検討



## <六体地蔵周辺地区>

- ・地蔵盆の舞台となるような街路空間のデザイン  
(例：伊勢街道の曲折地帯)
- ・沿道建築のデザインガイドラインを検討
- ・地蔵盆に合わせて行灯祭りを開催

## <浸水危険地帯住宅の移動>

- ・浸水の危険がある地区内の住宅を微高地の伊勢街道沿いに計画的に移転

## <朝市の会場>

- ・常夜燈や八幡神社との関係を考慮した屋外空間のデザイン
- ・半屋外空間の設計

- ：まちかど博物館
- ：旧伊勢街道
- ：海・川・水路など
- ：寺社
- ：公園・緑地
- ：教育施設・その他の公共施設

## <海岸沿いの堤防道路>

- ・堤防の強化
- ・散策路・サイクリングロードの整備
- ・防災案内板の設置

## <松並木の保全と歩道整備>

- ・松並木の保全活動
- ・段差のない歩道に整備

# 江島地区提案マップ

## (6) 第4回まちづくり講座

日時：2015年8月7日(金)14:00～16:00

場所：白子コミュニティセンター、寺家地区・白子地区・江島地区

内容：学生の現地説明会、見学会

参加者数：51名

散策部会の概要：鈴鹿市役所から鈴鹿市の景観まちづくりについて解説があった後、5地区に分かれて、現地見学会を実施した。

### 第4回まちづくり講座の風景写真



## (7) 第5回まちづくり講座

日時：2015年10月31日(土)14:00～16:00

場所：三重大学レーモンドホール

内容：中間講評会

参加者数：50名

**まちづくり講座の概要：**学生7グループによる中間発表があり、それに対して修正意見を検討した。また、気に入った作品を2つ選んでシールを貼っていった。最後に修正意見の確認を行った。

### 第5回まちづくり講座の風景写真



寺家チーム 1 検討結果

<寺家ゾーン>指導：松浦・阿部 (TA)

「チーム名：なし」

413713柴田美紀・413731松野有希紘・413737山崎巧太

路地を生かした町づくり必要だと思いました。色々おしえて頂き、ありがとうございます。

人気投票結果

金：1票 ●

銀：0票

2015 年度第 5 回

海・街道・史跡 を活かした  
まちづくり講座 in 白子 2015.10.31

路地つく -暮らしの音が聞こえる町-

もっと分かりやすく色分け。パブリックと道路

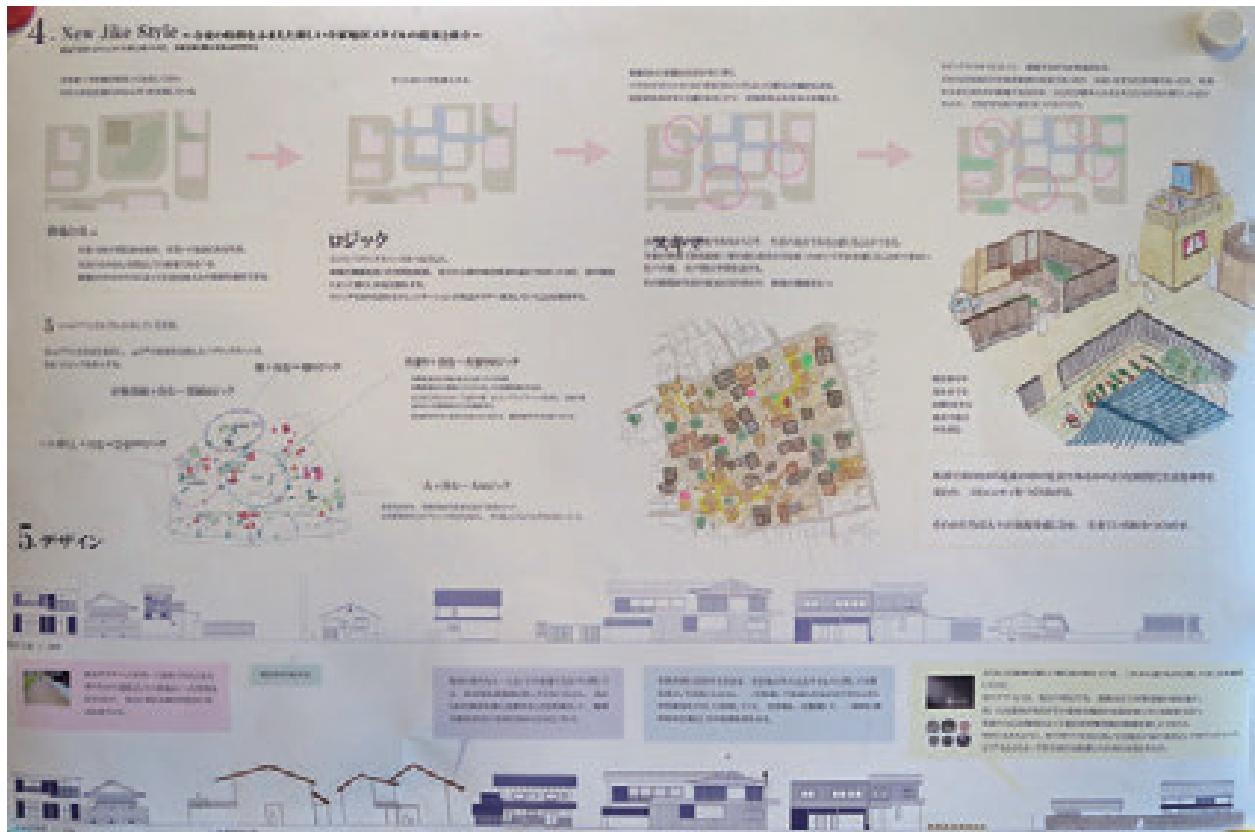
1. 路地

3. 3つのエリア

路地をもっと濃く。もっと量を書く

2. 町の表情

レイヤー分けがなされていない



白子 A チーム検討結果

<白子Aゾーン>指導:松浦・阿部(TA)  
「チーム名:ATM」  
413703伊藤彰利・413719内藤貴之・  
413733森山雅大・413725東野一星

人気投票結果  
金：1票 ●  
銀：6票 ● ● ● ● ● ●

2015 年度第 5 回  
海・街道・史跡 を活かした  
まちづくり講座 in 白子 2015.10.31

地区計画 白子A  
～現代に無い良さを探して～

メンバー  
・伊藤 彰利 ・内藤 貴之  
・東野 一星 ・森山 雅大

<特徴>  
・歴史的な伊勢街道の街並みが残る  
・白子幼稚園・小学校が近くにある住宅街  
・伊勢街道は細い道の割りに車の交通量が多い

商業地  
農地  
住宅地  
駐車場  
歴史的街並  
寺・神社

### 地区計画 白子A

～現代に無い良さを留めて～

<全体目標>

- 伊勢街道沿いの昔ながらの雰囲気を残すことが出来る街並みをつくる
- 白子幼稚園・小学校周辺住宅の活性化

<全体計画>

- 伊勢街道沿いの街並みの課題点を改善する
  - 白当たりが悪い、風通しによる木材の腐朽、無計画な住宅の配座
- 伊勢街道に立ったとき、軒の線が揃い、古い街並みを感じられるようにする
  - 通り格子、平入り、色合いなどのルールづくり
- ヒロモリ家を実験住宅とし、空き家の利用法を確立し、改修する

歩く方中心ではなく、車社会に対応したものもお願いしたい。

白子の町をよく調べ活かそうとしている姿が非常に感じられる。ありがたい。

説明はわかりやすい言葉でお願いします。

### ヒロモリの家

before

駐車場が必要です。





白子 B-1 チーム検討結果

<白子Bゾーン>指導:浅野・福原(TA)  
 「チーム名:なし」  
 413707唐澤冨佳・413716竹内貴洋・413720中島慶介

人気投票結果

金：0票

銀：1票 ●

2015 年度第 5 回 ●

海・街道・史跡 を活かした  
まちづくり講座 in 白子 2015.10.31

現状調査 Shirako-B

空き軍空地と津波浸水範囲

空き地についての考察

30年後の白子のために

いま私たちができること

PHASE1 減災+景観づくり=第1

PHASE2-1 賑わいの創出  
→魚市

伊勢型紙を使った灯りの案

防災を計画の中に組み入れたことはすばらしい。更に深く検討をお願いします。

白子駅東側が分かりませんが、勝速日神社は記入してほしいです

白子駅～勝速日神社～まちのつながり必要

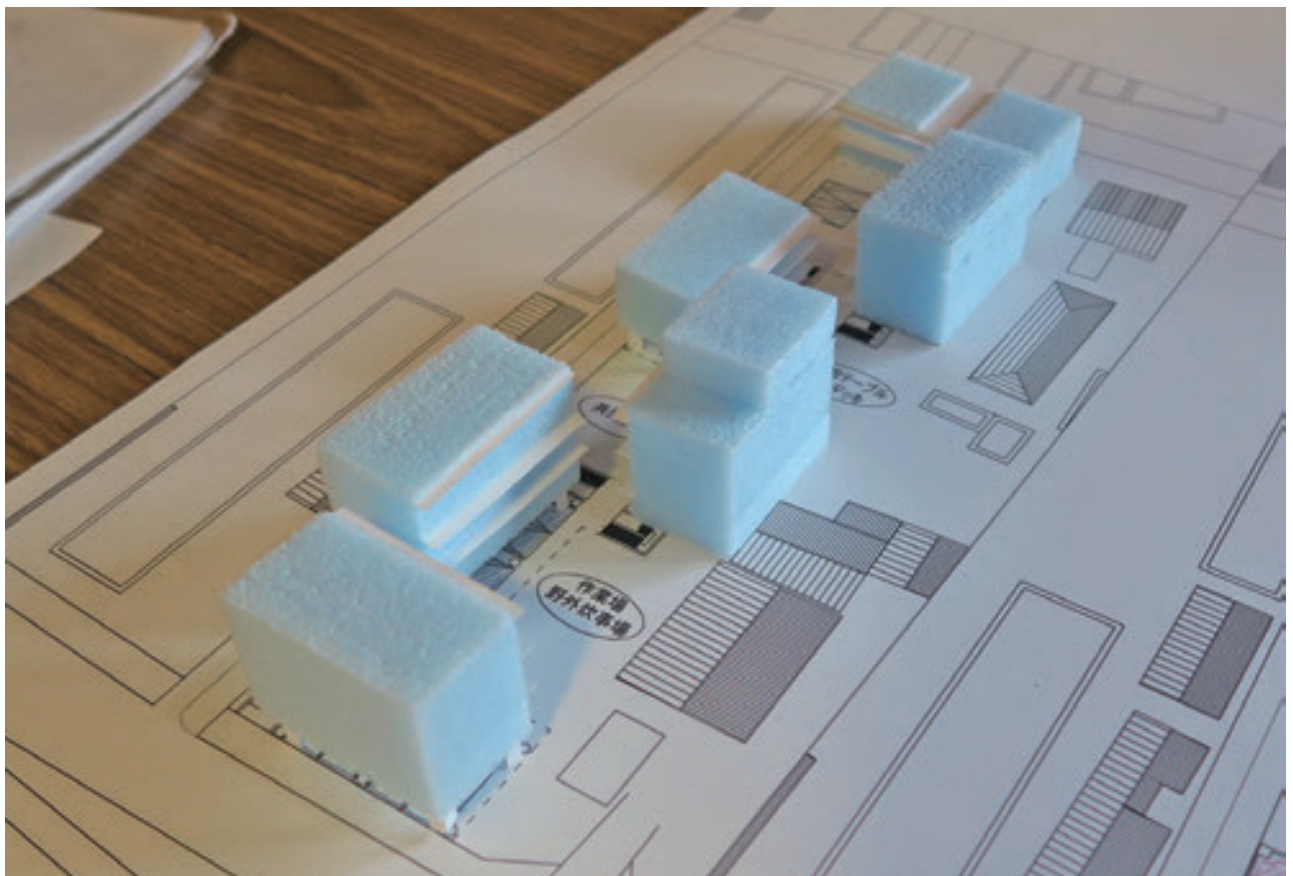
30年後の白子のために

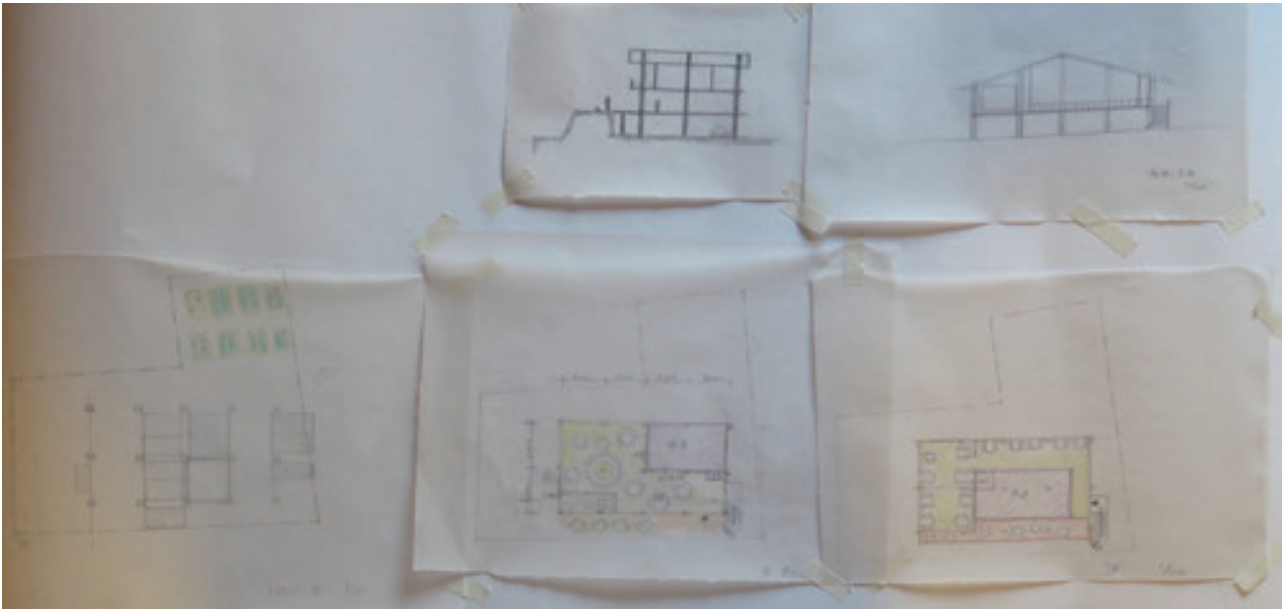
いま私たちができること

PHASE2-2 賑わいの創出  
→海街商店街

PHASE3 空き家、空き地の活用

PHASE4 伝統を生かしたまち並み





白子 B-2 チーム検討結果

<白子Bゾーン>指導:浅野・福原(TA)  
 「チーム名:YKK」  
 413710熊谷尚輝・413711近藤研人・413738山下祐輝

人気投票結果

金：7票 ●●●●●●●

銀：2票 ●●

2015 年度第 5 回  
 海・街道・史跡 を活かした  
 まちづくり講座 in 白子 2015.10.31

siroko-B back ground

**History**

歴史的背景  
1970年代伊勢湾台風後白子駅が被災され、駅を中心として復興。海軍基地により、軍用地が残る。震災前には軍用地が広がり、町の復興には困難が広がった。

復興の過程  
軍用地がなくなり、軍用地を復興としての役割を担う。海軍基地の跡地が復興、駅周辺に新しい商業地が生まれた。震災前の伊勢湾台風の被災地とは一線を画すようになった。

概要  
伊勢湾台風後の歴史的背景。白子駅は西に拡大した駅前商業地に付随している。伊勢湾台風は白子駅が被災はしたが、駅前商業地、スポーツ広場が広がる。

**Sea**

海  
震災の被災地である白子駅周辺の復興地によって形成された街並みが復興の過程を再現する。復興の過程として、海軍基地から復興地へ。

復興の過程として、海軍基地から復興地へ。

伊勢湾台風の被災地である白子駅周辺の復興地によって形成された街並みが復興の過程を再現する。復興の過程として、海軍基地から復興地へ。

途中、ベンチやトイレの施設があると散歩しやすい

食事とちよいとお茶とか休める所があれば良いのではないかと

食事するところがないので必要である。

ゲートボール等、老人ができるようにする。

公園にはトイレを設置してほしい。

食事をしたり交遊の場をつくりたい。

公園を作ったらメンテナンスまで考えて下さい。(全体的に)

路地歩きは楽しい。通り抜けながらお食事を楽しむのは快適。喫茶店でも。

まるかつの南の低い地域の利用を駐車場にする

### siroko-B plan

#### Concept



この地区の大きな魅力の一つである海を活かしたレストランイベントによって、大きな集客力をもつものとし、海と伊勢型紙をつなげる工夫をすることで、周辺地域に賑わいをもたらす



海と歴史の町並みという二つの魅力をそれぞれより魅力的なものとし、それぞれの結びつきを強める。

今後、人工や建物の減少に伴い、空き家・空き店舗が増えることが予想されるが、周辺を賑わわせることで人が増え、それによって必要な空き家・空き店舗が積極的に消滅する。

#### Suggestion1 白子案内所

この地区の賑わいの人口となる場所を設けるべきで、物産館・観光館・お土産展示・飲食・体験などがあってもいい。白子を訪れた人がこの地区の魅力を知らなければならない。また、増設店舗にも利用してもらおうと、人の交流を促す役割も果たせる。




#### Suggestion2 陸地

海沿いを歩くと見渡す、人が通りやすい環境にする。海と歴史の両方の魅力が楽しめるようにし、観光客が気軽に訪れたい場所にするためのポイントの役割を果たす。




伊勢型紙資料館～レストランの動線を活かすような(回遊性)計画にしていればなおいいと思います。


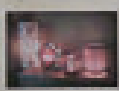
白子、寺家、江島地域に喫茶とかレストラン少なく、特に海岸線には散歩の人、地域のコミュニティの場に良い

### SirokoB-project1

周辺環境の賑わいの場になる場所の中で、強いコンセプトと集客力をもたせる


#### Impact1 賑×照明

内装・インテリアに伊勢型紙を用いることで、白子駅から離れた場所でも集客を促すから、自分の魅力を伝えることができる。

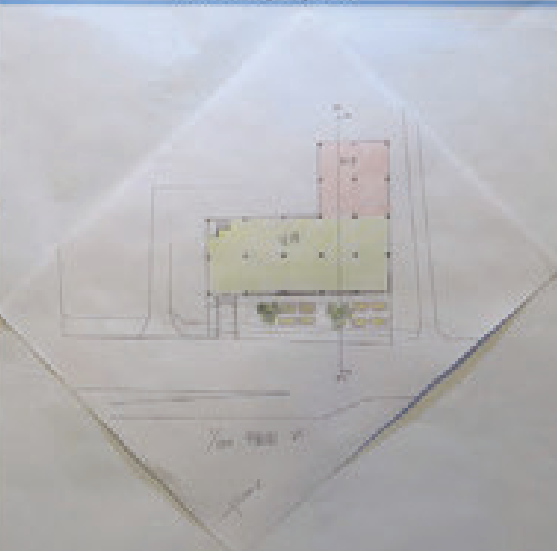
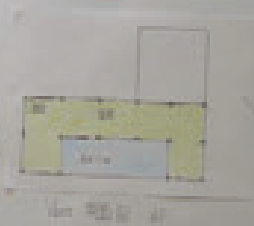

#### Impact2 景観を磨き上げる

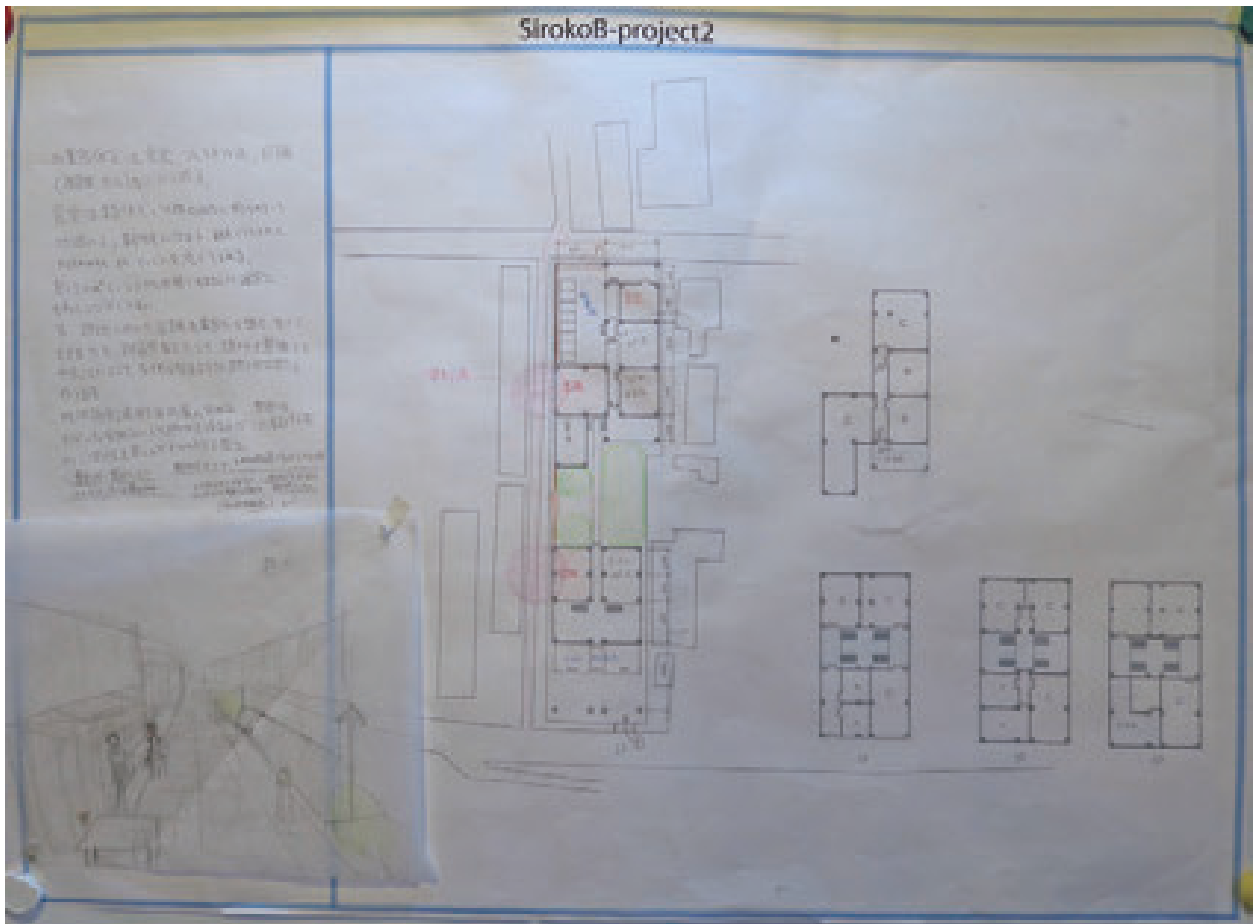
海に面する建物をガラス張り・テラスにする事で、観光客のインパクトを得るとともに、周辺から景観を向上させる。景観を磨き上げるから集客を促すことができるようにする



#### Impact3 観光客を誘引してもらう

海を眺めながら歩けることで、海沿いのまち歩きが楽しめる。観光客の誘引、集客力も高める



江島 A チーム検討結果

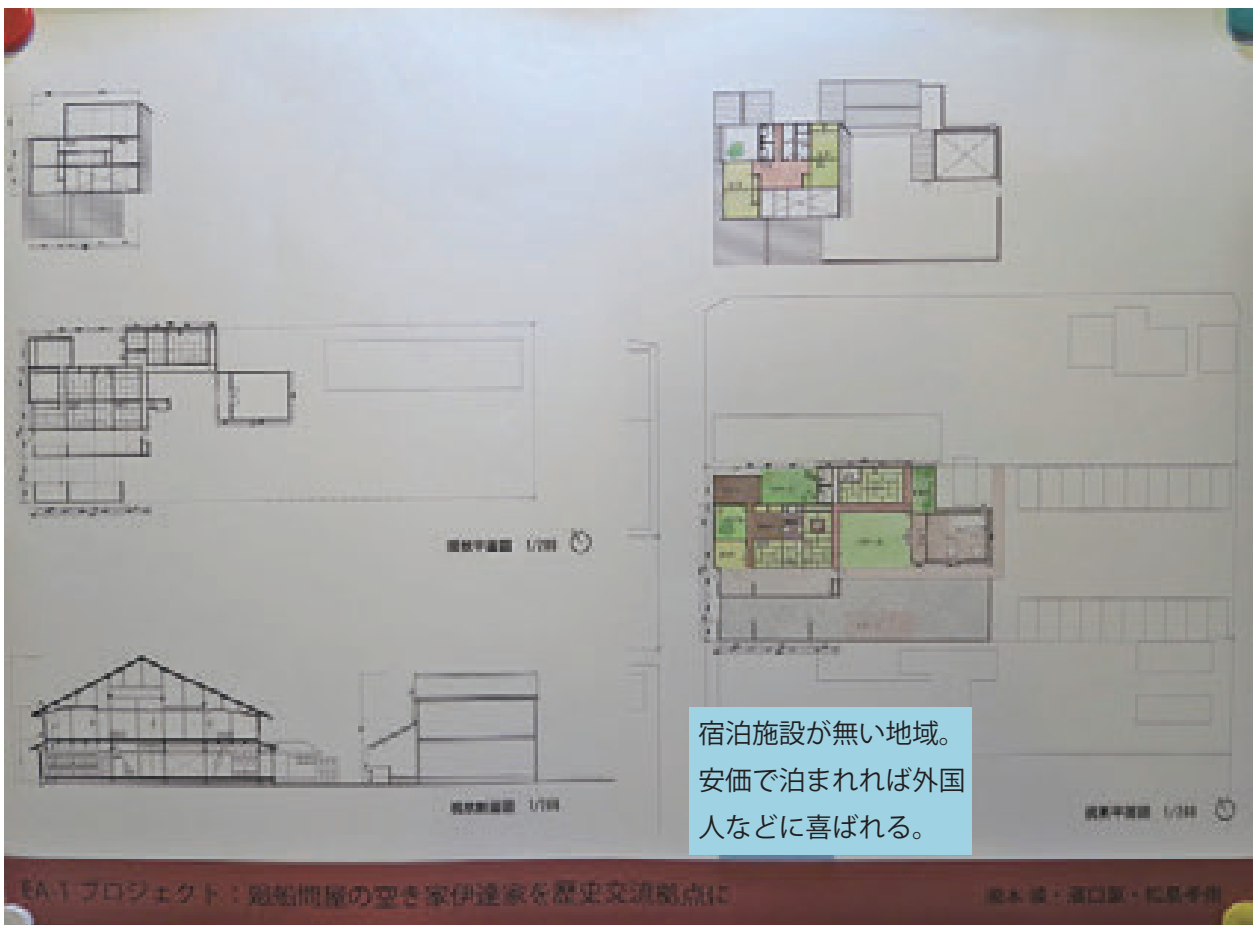
<江島Aゾーン>指導:浦山・森岡(TA)  
「チーム名:sea side」  
413715瀧本颯・413724濱口葉・413730松島孝侑

人気投票結果  
金：2票 ● ●  
銀：3票 ● ● ●

2015 年度第 5 回  
海・街道・史跡 を活かした  
まちづくり講座 in 白子  
2015.10.31







**コンセプト：職人と人を繋ぐまち**

伊勢街道を中心に緑地が広がる歴史的な町並みを生かす

魅力的な店舗が集まる地域に人が集まる

製作、展示、販売の条件が整った環境に職人が集まる

**ダイアグラム**

南北方向にのびる伊勢街道を、街道沿いに建つ町家、茶屋沿いには体験ができる店舗を多く配置し、街道に開けた開いたファサードにすることでにぎやかな雰囲気が増進にしみ出す。津波の影響を考え、駐車スペースを海側に配置。

東西方向に伊勢街道から緑地がのびる。途中の空き家は緑地を探検しながら見つけ出す隠れ家のような雰囲気のある店舗として活用。地域の魅力資源ともつながる。

**活用方策**

**伊達家**  
エリア全体の核となる施設として利用  
地域内店舗の集客を誘発、販売する雑貨屋  
者の暮らし体験、宿泊  
季節ごとの行事、イベント

**空き家**  
伊勢街道沿い  
一外から内部が見えるファサードとし、涼しげな雰囲気を感じる  
体験教室 工房  
緑地の奥  
一見つけると隠れるような隠れ家のような店舗  
雑貨屋 ガラリイ カフェ

**路地**  
奥まで入って探検したくなるような雰囲気のある店舗に接する路地と、隣接する住宅の住人が主に利用する生活路のある路地

**空き地**  
イベント広場 屋外の商品展示 公園

**駐車場**  
店舗や体験教室など公共に利用されるものは主に海側に集約  
短期間で移動完了する駐車場  
一歩、整備期間中のイベント広場など時間をかけて徐々に移動完了する駐車場  
一店舗や宿泊施設など移動完了が必要になっている施設

4F  
3F  
2F  
1F

集合住宅平面図 1/700

EAゾーン：活用方策の提案  
EAプロジェクト：伊勢街道沿いの建築モデルの設計

宮本 誠・山口 隆・松島 孝典



江島 B チーム検討結果

<江島Bゾーン>指導:浦山・森岡(TA)  
「チーム名:なし」  
413701青山瑤子・413726平山進也・413732村松研登

人気投票結果  
金：1票 ●  
銀：5票 ● ● ● ● ●

2015 年度第 5 回  
海・街道・史跡 を活かした  
まちづくり講座 in 白子 2015.10.31

敷地現状報告

電柱がなくなれば、道が広く使用できる。

空地もまだ多く有り、開発計画の余地がある。

- ・江島神社前で白子の朝市・近隣に小学校
- ・春、夏、秋に江島神社主催のお祭り
- ・夏に地蔵盆

● 空き地 ● 駐車場 ● 空き家



## 活用計画 2つの広場を中心につながる街

### 江島の魅力

- ・季節ごとに催されるお祭り
- ・白子の朝市
- ・住人のぬくもりが溢れる路地
- ・昔からここに住む人たちの、つながり

### 改善点

- ・崩れた街並み
- ・増える空き家、空き地
- ・縮小する祭りや朝市
- ・新しく移住してきた人が、ここの住民とつながっていない

### 江島の魅力をより良いものに、

- ・広場を交流の拠点に
- ・広場を繋ぐ旧伊勢街道の街並を整備する
- ・江島の祭り、住民の方々の生活道である路地や、縁の起元の作法を守ってゆく

具体的には



### 広場

- ・江島神社に次ぐ、第2の拠点とする
- ・町の人々がくつろげる場所
- ・集会所やお祭り、朝市や空き地と連携しイベントを開催

### 2つの空き地の活用

- ①えじまるあーむ
  - ・子供を対象に、有志で地を耕したい人を集う
  - ・子供たちを、地域住民がお手洗い
- ②イベント広場

- ・朝市の店舗や、小学校のバザーなどを拡張する
- ・広場でのイベントと連携する

### 4つの空き家の活用

- ①3つの空き家
  - ・リノベーションし、敷地内に住む住民の方々は移住してもらう
- ②敷地内の空き家
  - ・移転、八百屋やえじまるあーむと連携したカフェに改装する

## 広場の提案 旧伊勢街道沿いにある十字路を利用し、街の憩いの場所を作る

### 香隆と集会所、タバコ屋さん近辺

(現状)・祭りなど、イベントが開催される中心的場所であるが、あまりまとまったスペースがない  
 ・宮内のある歴史的な場所であるが、その雰囲気が崩れてしまっている

(提案)・イベントの際に利用できる広場を作り、また、常時は街の憩いの場所となるようにする  
 ・旧伊勢街道の趣を感じられるような場所にする

### 集会所

(現状)・日常的に使われているが、あまり中の様子が見えず寂しい雰囲気

(提案)・中の様子がより見えるようにし、広場も使えるような、より活気づいた場所にする

### タバコ屋さん

(現状)・駄菓子が発売されており、子供たちが多く利用するが、車通りが多く危険

(提案)・駄菓子を買いにきたら、そのまま安全な広場で食べて遊べるような、広場に開いた形にする

### 八百屋さんや、向かいの住宅近辺

(現状)・周辺に八百さんを主に、店舗が多いが旧伊勢街道は車通りが多いため、ゆっくり出来る場所がない

(提案)・八百さん前を中心とした広場を設け、買い物に訪れた人が休める場所を作る  
 ・縮小する朝市を広場でも催し、客足をのばす  
 ・朝市や、八百さん裏で採れた野菜を使った料理を提供するカフェを作る

### 八百屋

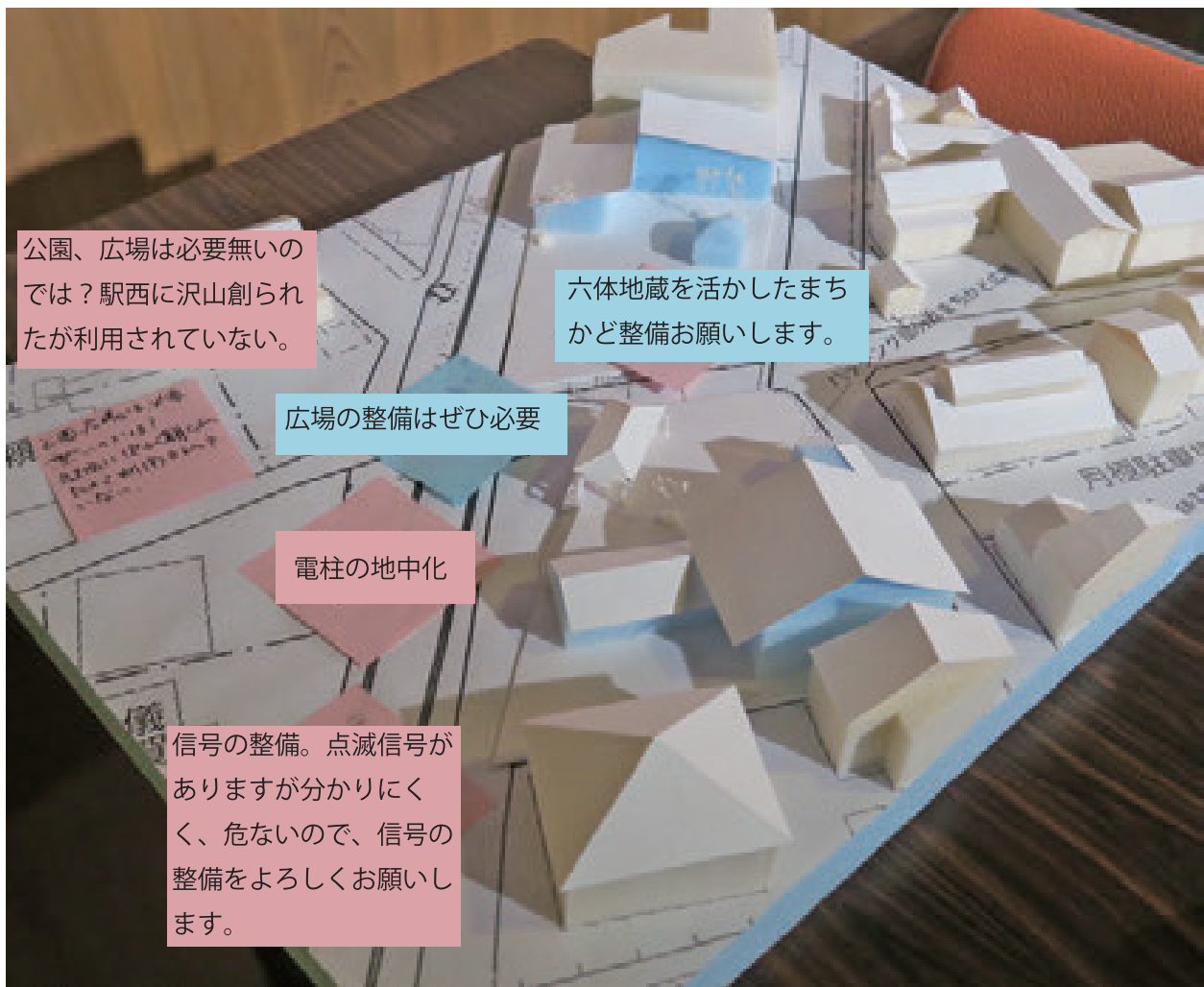
(現状)・車通りの多い旧伊勢街道に面しているため、歩いてきた人が危険

(提案)・街道に対しゆとりをもった作りにし、街の人が買い物しやすいようにする

### カフェ

(提案)・八百屋前の空き家を改築し、朝市や畑などで採れた野菜を使った料理を提供  
 ・街の方だけでなく、外の人も足を運んでもらえるような場所を目指す





## (8) 第6回まちづくり講座

日時：2015年12月8日(火)18:30～21:00

場所：鈴鹿市役所 12階小会議室

内容：地元講評会

参加者数：47名

まちづくり講座の概要：学生7グループによる最終発表があり、それに対して意見交換を行った。

### 第6回まちづくり講座の風景写真



## 出された意見の概要（作品は p.57 以降を参照のこと）

### 寺家－1について

- ・地域住民が路地の活用を望んでいるかがポイント。  
→まちづくり講座で地域住民の意向を反映させている。現在の住民に加えて、若い世代が住みたくなる環境をいかに作っていけるかが重要ではないか。
- 寺家－2について

- ・防災広場のネットワークの提案は面白い。鈴鹿市役所に提案して、実現化してもらいたい。
- ・広場もいいが、道路の拡幅も必要ではないか？  
→路地については保全すべき路地と拡幅すべき路地を整理し、防災広場の整備と道路の拡幅を両輪で進めていく必要があるだろう。

### 白子Aについて

- ・伊勢街道の無電柱化が有効ではないか。
- ・伊勢街道を歩行者専用道路として提案しているが、拡幅をして歩車融合型の道として考えられないか。  
→拡幅すると、現在のヒューマンスケールの道路構成が崩れてしまうため、慎重な検討が求められる。歩行者専用道路というより歩行者優先道路として位置づけるのが現実的だろう。

### 白子B－1について

- ・防災の観点が甘いのではないか？  
→県が予測する最大の浸水データを基に提案しており、甘くはないと思われる。
- ・人の流れをどう作っていけばいいのか？  
→白子港に人の流れを作るという提案になっている。

### 白子B－2について

- ・修景の仕方に工夫が欲しい。

### 江島Aについて

- ・地域住民以外の人々が訪れるまちにするべきではないか。  
→伊達家を「まちの駅」として位置づけ、観光まちづくりの拠点になればと考えている。
- ・伊達家については難しい面もあるが、使い続けていきたい。

### 江島Bについて

- ・車の交通量が多いため、一方通行にするなどの対策をしないと危ないのではないか？  
→一方通行は地域住民の反対を受けやすいが、安全対策の観点から検討していく必要がある。



## (9) 地元展示会

日時：2015年12月9日(水)～13日(日)

場所：鈴鹿市役所1階市民ギャラリー

内容：学生提案の7作品の図面と模型の展示

まちづくり講座の概要：学生7グループによる最終発表があり、それに対して意見交換を行った。

### 展示会の風景写真



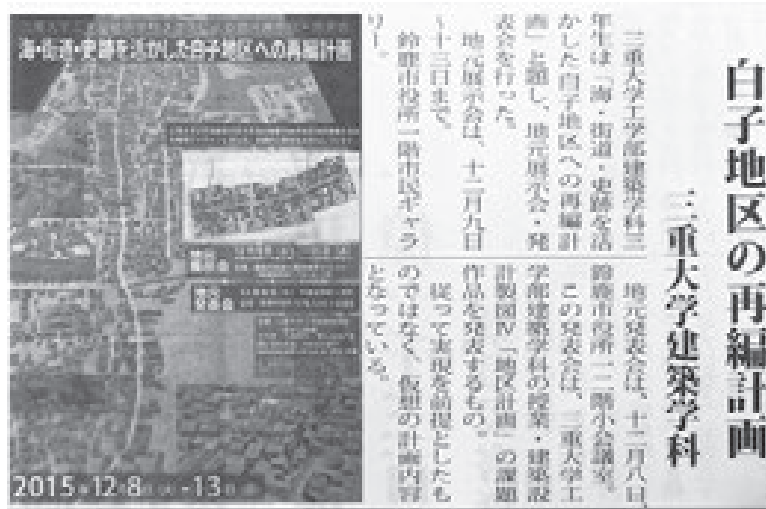
<新聞記事等>

「白子のまちを三重大生が考察」(見出し抜粋)

ケーブルテレビCTYの「ケーブルNews」(2015.12.10)



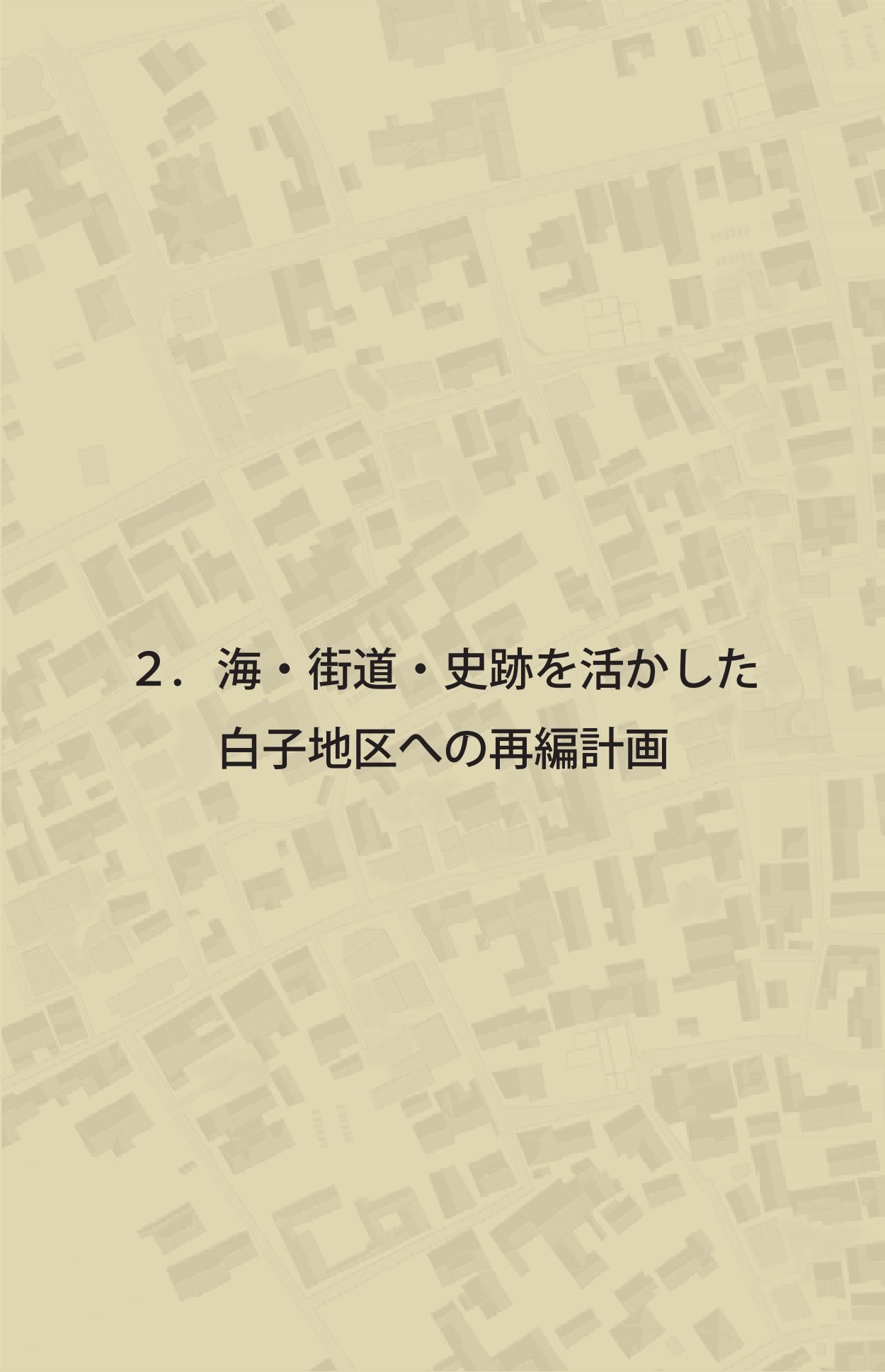
「白子地区の再編計画  
三重大学建築学科」  
(見出し抜粋)  
三重建設新聞  
(2015.12.11)



「白子再編プラン一目で 三重大生 図面や模型で展示」  
(見出し抜粋)  
中日新聞 (2015.12.13)



紹介している。松浦助教は「白子は街道を軸にあつちる魅力が湧きあがり、市民主体のまちづくりの推進が高まり、市内の他地区にも波及していく」と話した。(山本尚也)



## 2. 海・街道・史跡を活かした 白子地区への再編計画



## (1) 課題内容の概要

### 三重大学「建築設計製図Ⅳ」第1課題 「地区計画—海・街道・史跡を活かした白子地区への再編計画」

担当：松浦（出題）・浦山・浅野 TA：阿部・福原・森岡

協力：白子まちづくり講座（白子公民館）・鈴鹿市・白子の歴史文化を活かす会・Blanc-Co

#### 1) 課題内容

鈴鹿市白子地区（近鉄の東側）では2012年度から白子公民館にて「白子まちづくり講座」が開講され、まちづくりのための様々な取り組みが積み重ねられてきた（「海・街道・史跡を活かした白子のまちづくりのための92のアイデア集」の製作、白子街道ウォークの開催、白子まち歩きマップの製作、白子景観資源マップの製作など）。白子地区は近鉄特急が停まる白子駅に隣接するアクセスの良さに加えて歴史的資源が豊富に残り、美しい海岸などの自然資源も有している。

本課題では、30年後を目処として、鈴鹿市白子地区の空間計画を構想する。白子地区全体の将来空間イメージは、「場所の特性に合った適切な土地利用に転換し、増加しつつある空き家・空き地を立地条件や空間の質に応じて都市的土地利用と自然的土地利用に計画的に転換していくことで、海・街道・史跡を活かしたまちへと再編していく」と想定することとする。また、コンパクトシティ（立地適正化計画）や事前復興まちづくりの観点から、微高地に立地する歴史的市街地に都市的機能を集約化することを計画の前提とする。建築の建て方のルール、オープンスペースの取り方・ネットワーク、伊勢街道や港との関係を考慮した建築の提案を期待する。

なお、本課題では、白子地区を以下の5つのゾーンに分ける。各ゾーンに2つのグループが担当するようにグループ間で調整すること。

#### 2) 提出作品

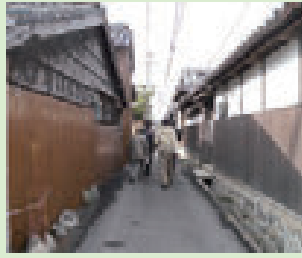
- ① 空き家・空き店舗・空き地の現状分析と活用方策の提案
- ② ゾーン全体の屋根伏図
- ③ 伊勢街道沿いの連続立面図（現状と提案）
- ④ 地区計画・建築計画・外構設計
- ⑤ 地区模型

#### 3) スケジュール

- ① 7月31日（金）出題・課題説明・スライドレクチャー（松浦）
- ② 8月7日（金）現地説明・現地調査
- ③ 9月18日（金）実測調査WS
- ④ 10月9日（金）空き家・空き店舗・空き地調査結果のまとめと活用方策の提案、ゾーン全体の屋根伏図、伊勢街道沿いの連続立面図（現状と提案）、実測調査結果
- ⑤ 10月16日（金）空き家・空き店舗・空き地調査結果のまとめと活用方策の提案、ゾーン全体の屋根伏図、伊勢街道沿いの連続立面図（現状と提案）、地区計画・建築計画・外構設計の発表その1
- ⑥ 10月23日（金）空き家・空き店舗・空き地調査結果のまとめと活用方策の提案、ゾーン全体の屋根伏図、伊勢街道沿いの連続立面図（現状と提案）、地区計画・建築計画・外構設計の発表その2
- ⑦ 10月30日（金）中間講評会
- ⑧ 10月31日（土）学外向け中間講評会@レーモンドホール
- ⑨ 11月6日（金）地区計画、建築計画、外構設計の発表その2
- ⑩ 11月13日（金）地区計画、建築計画、外構設計の発表その3
- ⑪ 11月26日（木）提出（図面・模型）
- ⑫ 11月27日（金）最終講評会
- ⑬ 12月8日（火）～13日（日）地元発表会・展示会

## 寺家ゾーン

子安観音寺を中心として迷路状の路地が巡らされているゾーン。道路沿いに小さな庭を持つ住宅が特徴。伊勢型紙職人の住むまちとして知られている。



## 白子Aゾーン

白子小学校の西側の伊勢街道沿いに広がるゾーン。歴史的建造物（築5年以上）が多く残されている。格子戸のある平入りの町家建築が特徴。



# 対象地区の概要

## 江島Aゾーン

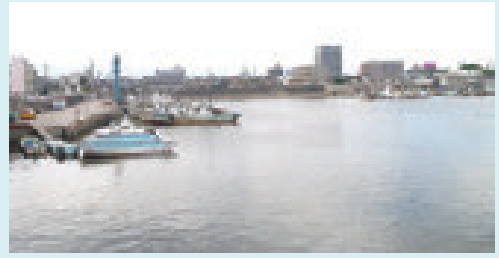
白子駅前通りから東に広がるゾーン。伊勢街道沿いに鰻絵のある町家が残されている。勝速日神社の春の例大祭が開催されることで有名。

沿いに  
(築 50  
。格子  
特徴。



### 白子Bゾーン

白子駅前通りから西に広がるゾーン。近鉄白子駅や白子港が隣接する。



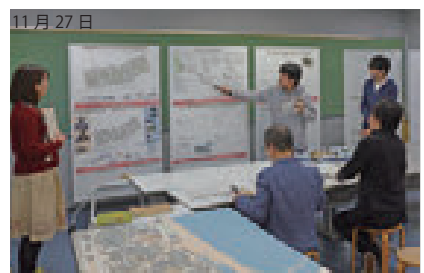
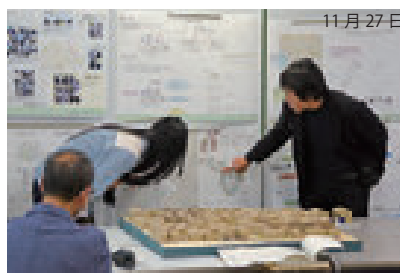
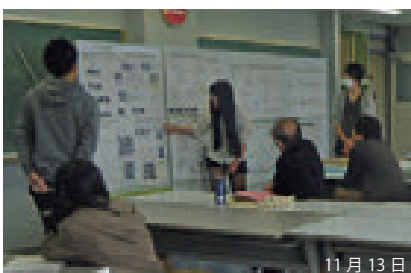
るゾー  
る町家  
の春の  
名。



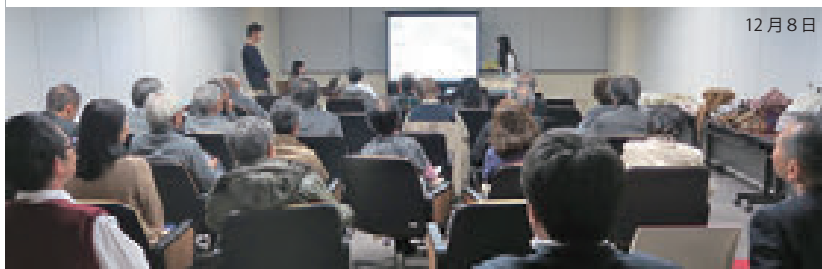
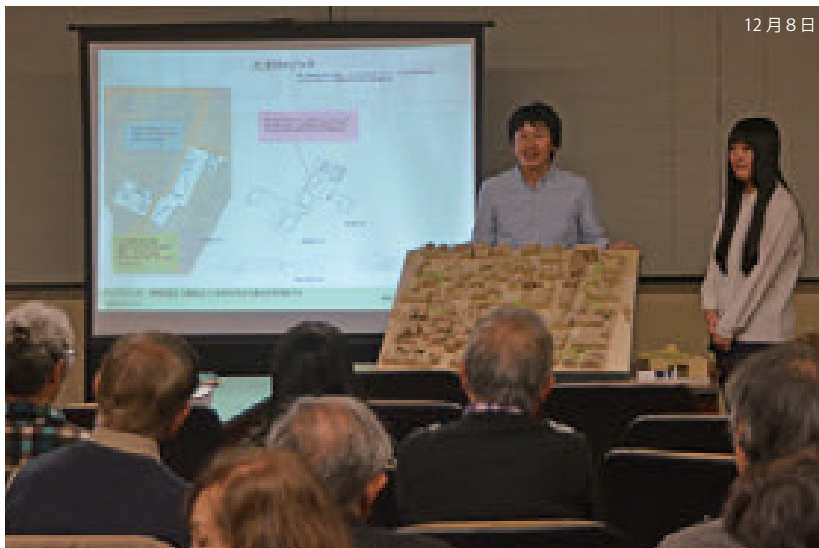
### 江島Bゾーン

最も北に位置するゾーン。江島若宮八幡神社の江戸祭、六体地藏の地藏盆などの祝祭が開催されることで知られている。









# 三重大学工学部建築学科3年生による地元展示会・発表会 海・街道・史跡を活かした白子地区への再編計画

三重大学工学部建築学科3年生が鈴鹿市白子地区の将来像を自由な発想でデザインしました。多数のご来場をお待ちしています。

## 地元 展示会

12月9日(水) ~ 13日(水)  
午前8時半~午後5時 (13日は午後4時まで)  
会場: 鈴鹿市役所1階市民ギャラリー  
三重県鈴鹿市神戸1丁目18-18

## 地元 発表会

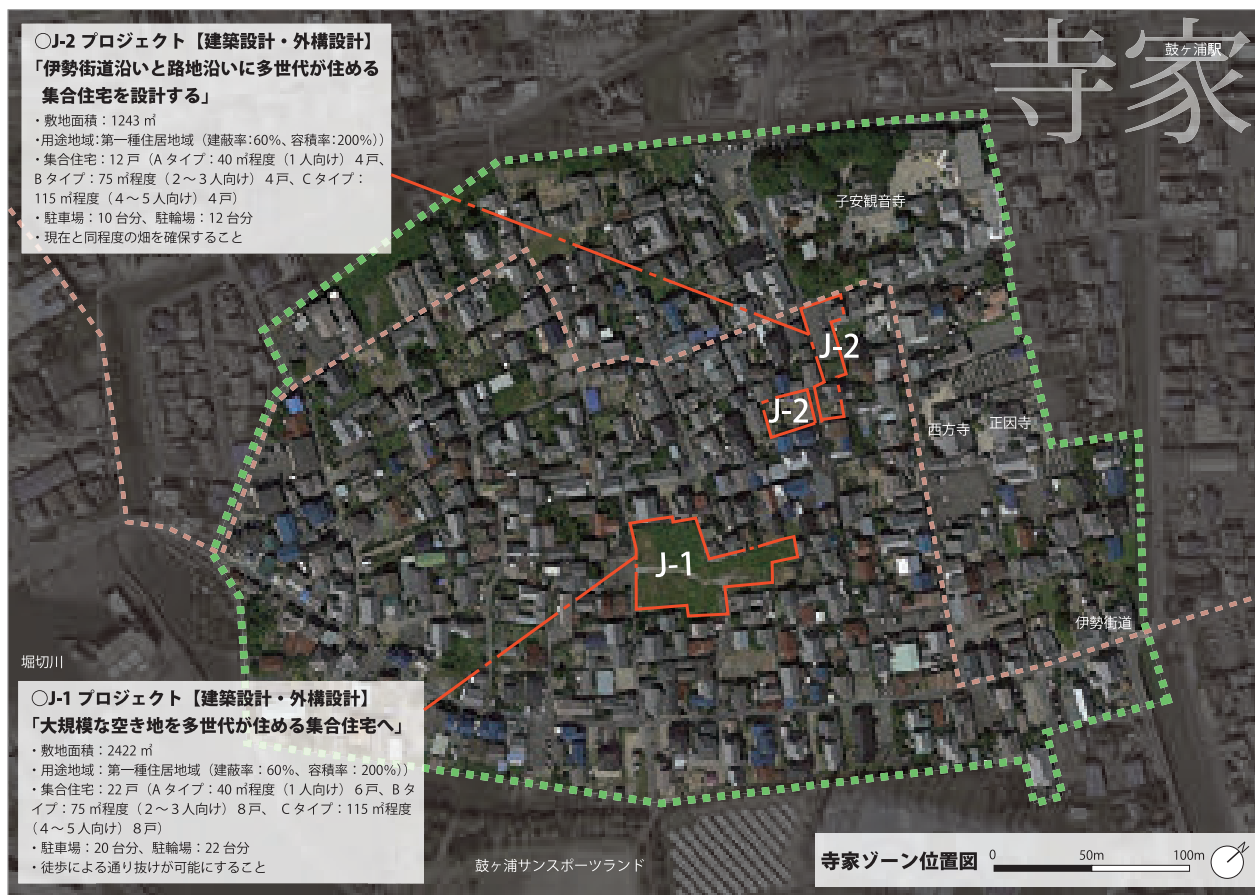
12月8日(火) 午後6時半~9時  
会場: 鈴鹿市役所12階1202小会議室

主催: 三重大学工学部建築学科  
・白子公民館  
その他: 入場無料・申し込み不要  
問い合わせ先: 059-231-9477  
matsuura@arch.mie-u.ac.jp (担当: 松浦)

\*この発表会は三重大学工学部建築学科の授業・建築設計製図Ⅳ「地区計画」の課題作品を発表するものです。従って、実現を前提としたものではなく、仮想の計画内容となります。

2015年12月8日(火) - 13日(日)

## (2) 寺家地区



## 寺家地区「ハムステーク」

柴田美紀・松野有希紘・山崎巧太



寺家は“人が住む”ためのまちです。主な生活動線として路地を使い、独自のコミュニティをつくりあげていった。家と家の間を縫うようにどこまでもつづくながい道。それはただの道ではなく、住民の暮らしのカタチであった。しかし、現在の路地は路地としての機能を失いたただの道となってしまっている。かつて存在した暮らしのカタチをよびもどし、暮らしの音が鳴り響くまちを提案する。路地は住まいと町の間にある境界であり、生活のはみ出し空間として住まいの延長にある外部である。住民は路地との関わり方によって他人との関係を選択できる。道路でありながらも車が通ることを想定しておらず、また通る者も限られているからこそ、住人は家から生活をはみ出させ互いの暮らしを共有する。路地での暮らしの共有は少数の世帯になるが、はりめぐらされた路地は小さな共有を連続させ、寺家全体を繋ぐ大きなコミュニティをつくりあげる。こうしてできた路地コミュニティは場所を問わず住民の暮らしを垣間見れる寺家の姿をつくりだしていく。



## 暮らしの音でつながるまち ～寺家の特徴をふまえた新しい寺家スタイルの提案～

### 1. 寺家と路地

寺家は「人が集む」ための場所である。互いの顔を見ながら、会話やコミュニケーションの場が溢れている。また、互いの生活の音や笑い声が聞こえてくる。寺家は、互いの生活の音や笑い声が聞こえてくる。また、互いの生活の音や笑い声が聞こえてくる。

### 2. 路地の現状

路地の現状を把握し、課題を抽出し、改善策を提案する。

#### 空き地に面している

空き地に面している。空き地に面している。空き地に面している。

#### 空き家に面している

空き家に面している。空き家に面している。空き家に面している。

#### ながく続く道

ながく続く道。ながく続く道。ながく続く道。

#### 路地の機能をもつ

路地の機能をもつ。路地の機能をもつ。路地の機能をもつ。

#### 駐車場に面している

駐車場に面している。駐車場に面している。駐車場に面している。

### 路地の機能

路地の機能を把握し、課題を抽出し、改善策を提案する。

### 路地で生まれるコミュニティ

路地で生まれるコミュニティ。路地で生まれるコミュニティ。路地で生まれるコミュニティ。

寺家	寺家の機能をもつ路地
路地	路地の機能をもつ路地
寺家	寺家の機能をもつ路地
寺家・路地	寺家の機能をもつ路地
路地の機能をもつ	路地の機能をもつ路地
路地	路地の機能をもつ路地

現状分析

栗田美紀・松野有希哉・山崎巧太

## 暮らしの音でつながるまち ～寺家の特徴をふまえた新しい寺家スタイルの提案～

### 3. 路地の分析

路地の分析を把握し、課題を抽出し、改善策を提案する。

### 4. 提案と工夫の検証

提案：今あるコミュニティとコミュニティをつなぐ新たな空間を挿入する

大かまど  
小かまど

Good Normal

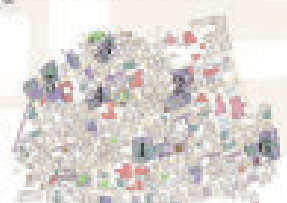
運用計画

栗田美紀・松野有希哉・山崎巧太

### 大きい操作

市街地の再開発一帯を再開発の一環として行っている。その中で再開発の範囲を拡大して、周辺地区まで広げていく。


また、周辺地区でも再開発の範囲を拡大して、再開発の範囲を拡大して、周辺地区まで広げていく。



### 小さい操作

再開発の範囲を拡大して、周辺地区まで広げていく。


また、周辺地区でも再開発の範囲を拡大して、再開発の範囲を拡大して、周辺地区まで広げていく。



### スキマ

再開発の範囲を拡大して、周辺地区まで広げていく。


また、周辺地区でも再開発の範囲を拡大して、再開発の範囲を拡大して、周辺地区まで広げていく。



### ロジック

再開発の範囲を拡大して、周辺地区まで広げていく。


また、周辺地区でも再開発の範囲を拡大して、再開発の範囲を拡大して、周辺地区まで広げていく。



### ゾックとスキマ

再開発の範囲を拡大して、周辺地区まで広げていく。

また、周辺地区でも再開発の範囲を拡大して、再開発の範囲を拡大して、周辺地区まで広げていく。



活用計画
柴田美紀・松野有希哉・山崎巧次

### ひとロジック

再開発の範囲を拡大して、周辺地区まで広げていく。

また、周辺地区でも再開発の範囲を拡大して、再開発の範囲を拡大して、周辺地区まで広げていく。



### ひとロジック

再開発の範囲を拡大して、周辺地区まで広げていく。

また、周辺地区でも再開発の範囲を拡大して、再開発の範囲を拡大して、周辺地区まで広げていく。



### J-1 プロジェクト: 大規模な空き地を多世代が住める集合住宅へ「ひとロジック」

再開発の範囲を拡大して、周辺地区まで広げていく。

また、周辺地区でも再開発の範囲を拡大して、再開発の範囲を拡大して、周辺地区まで広げていく。



活用計画
柴田美紀・松野有希哉・山崎巧次

## たまりロジック

異なる路地が交差する場所、ミスマッチな表層を許すことによってたまりの場が生まれる。空き地や空き家によって断絶された住戸同士が繋げられる。

北側の人が立ち回ったスペース、近隣の人や居住者が思い通りの活動をする事ができる。

ミスマッチの路地が交差する場所、断絶の人々をたまりの場が創出され、はたかたなる場地。断絶事の合間に休憩してきつ心地のよい場となる。

集合住宅で人混みの良いスペースであり、ローバーによって多世代の住居性も入りし、子ども遊んでも遊べることができ、集合住宅での住居性の確保が実現できることが期待できる。

**J-2プロジェクト：伊勢街道沿いと路地沿いに多世代が住める集合住宅を設計する「たまりロジック」**

柴田美紀・松野有希・山崎巧太

## 現状のまちなみ

現状のまちなみ

まちなみの提案

### 景観計画

今般地区では路地が生活の中心となっていて、地区全体に路地が散らばっている。一貫した趣向で、生活の場が温かみある景観を創出し、集合住宅が溶け込んでいく。

- 1. 伊勢型感を聞いた聲**  
白子地区は伊勢型感の中心地である。今般地区では数人暮らしや高齢者が多く住んでいる地域でもあるので、早中身の伊勢型感による路地の賑わいを再現し、北見を再現し、今般地区に伊勢型感の景観を再現する。
- 2. 暖色アスファルト**  
景観の中心地として、アスファルトの色を暖色にする。暖色アスファルトを入れる。路地内の景観を再現し、路地の賑わいを再現する。人々を誘う。そこから路地へとつながる。今般地区の賑わいを再現する。路地の賑わいを再現する。
- 3. 既存地の雑地化**  
路地一帯にレンガを散らすことで路地の中心地を再現し、まちなみの景観を再現する。路地の中心地を再現し、まちなみの景観を再現する。路地の中心地を再現し、まちなみの景観を再現する。
- 4. まちなみの約束**  
路地一帯にレンガを散らすことで路地の中心地を再現し、まちなみの景観を再現する。路地の中心地を再現し、まちなみの景観を再現する。路地の中心地を再現し、まちなみの景観を再現する。

連続立面・景観計画

柴田美紀・松野有希・山崎巧太



全景



大規模な空き地を多世代が住める集合住宅へ「ひとロジック」



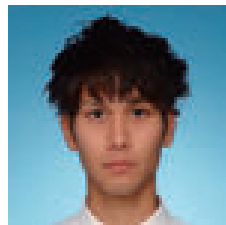


伊勢街道沿いと路地沿いに多世代が住める集合住宅「たまりロジック」

## 寺家地区「okk」

### 広場～路地がつなぐ 寺家ネットワーク

大竹理人・加藤心彩・川瀬遼平



私たちがこの寺家地区の地域計画をする際にまず「防災」と「交流」を大切にしました。この寺家地区というのは細い路地が多く、消防車が通れない道が多いなど防災面で問題がありますが、人々の安心な交流という側面から考えると魅力的とも言えます。そこで、細い路地を無くしていくのではなく、人々のウォーキングロードとし、また、地域全体に多く点在する空き地・空き家を、防災の機能の備わったポケットパークに作り変えることにより地域全体の防災機能と住民同士の交流の向上を考えました。さらにポケットパーク内に入口・出口を作ることにより、思わず立ち寄りたくなるような景観を目指しました。線路沿いの広い空き地に対しては共用の畑にすることで農業体験を行い、また近くに地域の特色である伊勢型紙の体験の場なども設け地域の活性化や、外部からの体験者・子供たちへのアプローチも意識しました。広場を中心とした、「安全」と「住民・子供達・体験者それぞれの様々な関わり合いの形」を作り上げました。

**広場**  
～路地がつなく寺家ネットワーク～

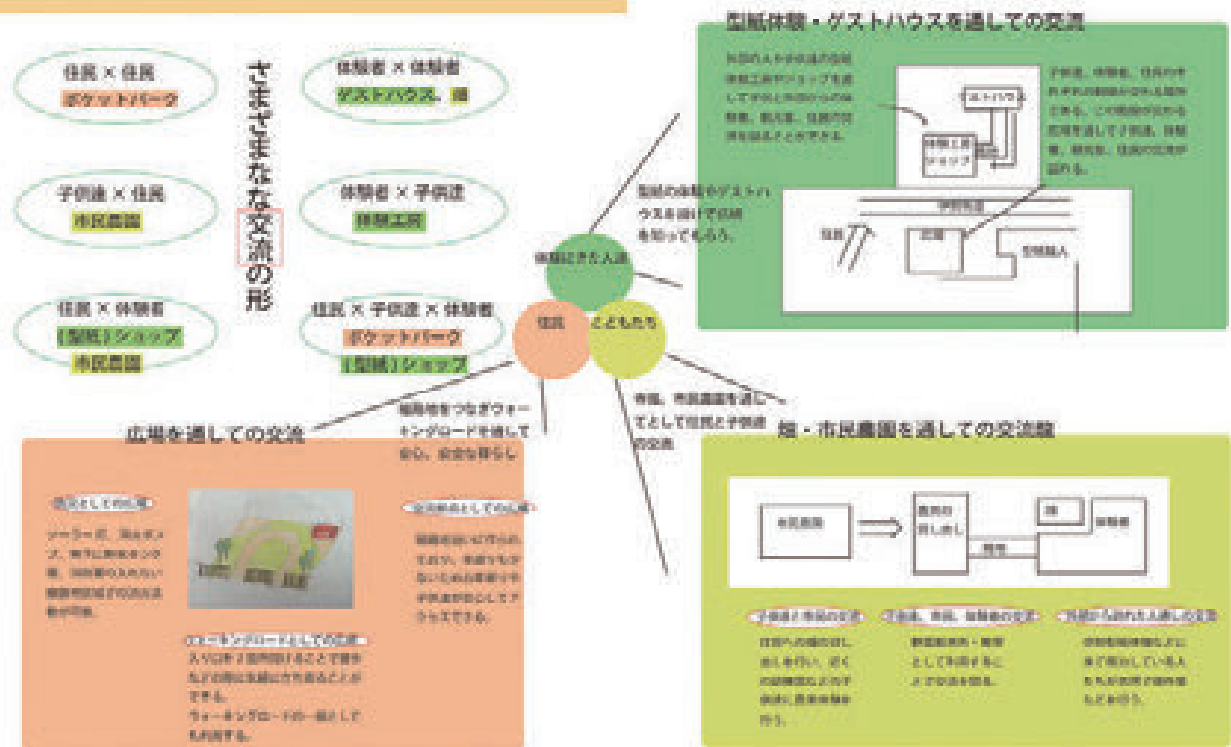


寺家ゾーン：屋根伏せ、現状分析、全体計画  
ひろば ～路地がつなく寺家ネットワーク～  
大竹理人 加藤心彩 川瀬涼平



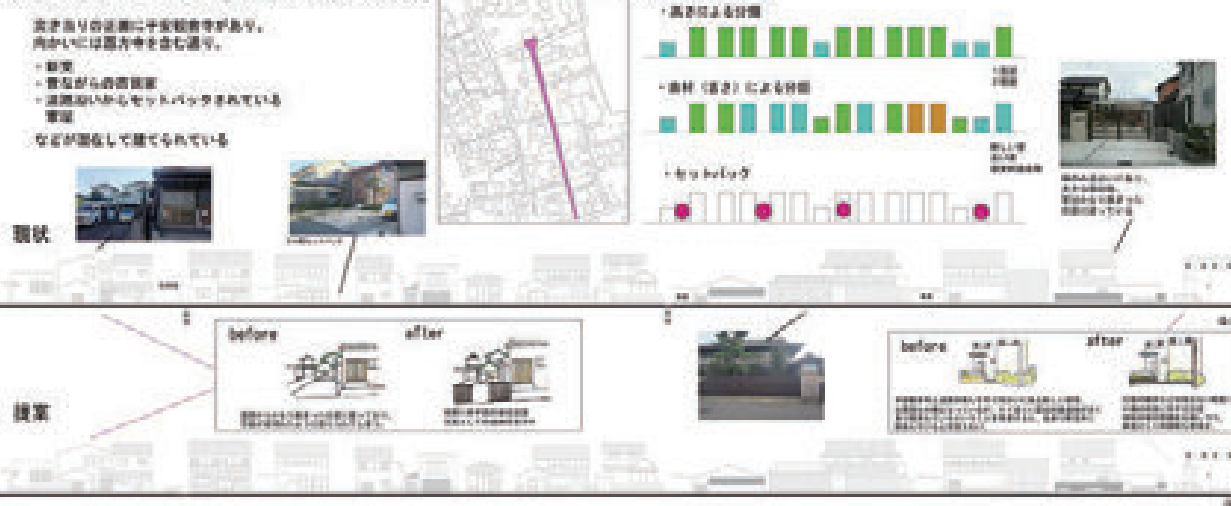
寺家地区：ポケットパークから広がる防災プロジェクト  
大竹理人 加藤心彩 川瀬涼平

### 地域内外の人々が交流できる commonspace の整備



寺家ゾーン：活用方策の提案  
地域内外の人々が交流できる commonspace の整備  
大竹唯人・加藤心彩・川瀬達平

### 表の顔としての参道空間の整備

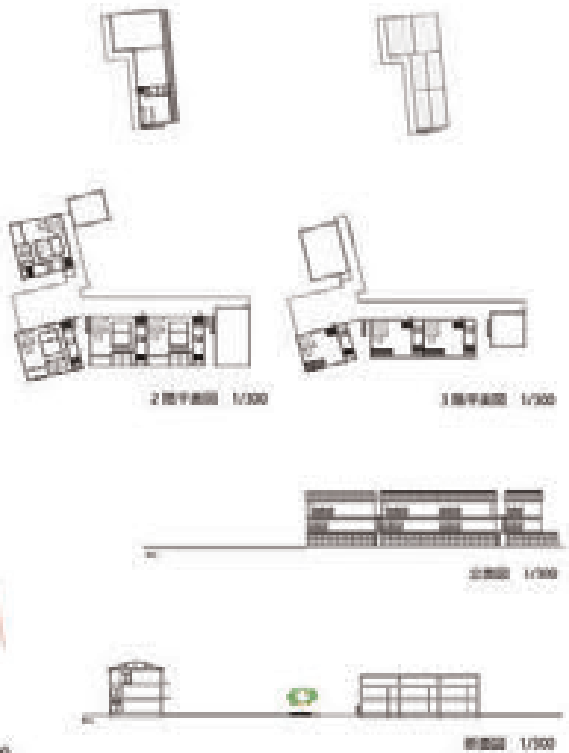


### 活用の提案



伊勢街道沿いの連続立面図（現状と提案）  
「表の顔としての参道空間の整備」  
大竹唯人・加藤心彩・川瀬達平

交流を生む防災集合住宅  
(J1プロジェクト)



J1プロジェクト：交流を生む防災集合住宅 大竹理人 加藤心彩 川瀬遼平

表のみちから裏のみちへ  
(J2プロジェクト)

子安観音寺を含む伊勢街道の道から、歩いて出る細路地への引き込みをはかる。

この  
道(伊勢街道)から路(細路地)へ

細路地の製造には延焼防止を目的に、街道の敷設も無しつつ路地内の敷設へと変えていく。また、路を住宅で覆うような製造にし、また、路に住民が共有できるようなオープンスペースを置くことにより、住民同士が雑作集まったり賑わいながら交流が出来るようになっている。

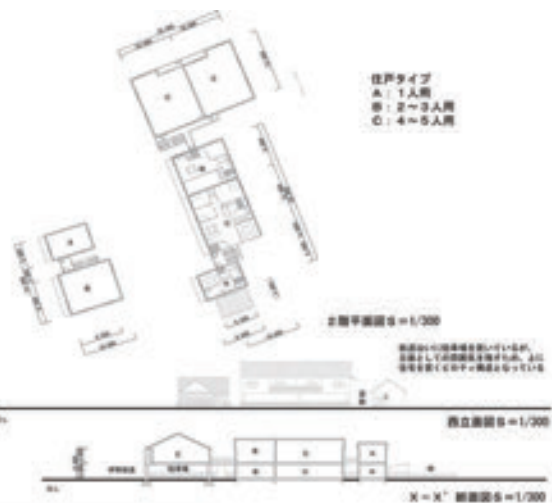
集会所を兼ねて災害避難場所として活用出来るように  
住宅と併せて集会所を併設する

伊勢街道沿いの道から路地へ  
引き込みを計画する



集会所を兼ねて災害避難場所として活用出来るように  
住宅と併せて集会所を併設する

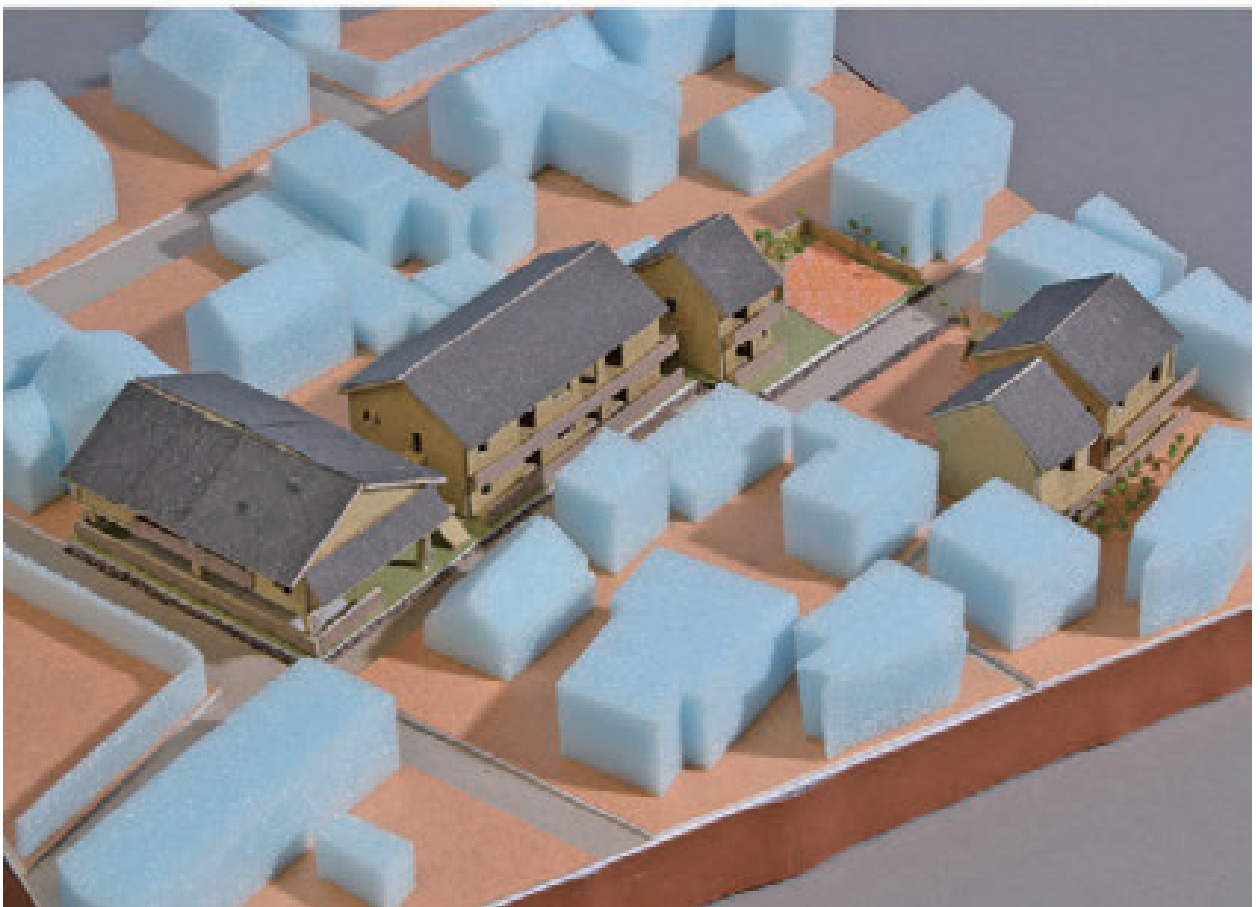
伊勢街道沿いの道から路地へ  
引き込みを計画する



J2プロジェクト：伊勢街道沿いと路地沿いに多世代が住める集合住宅「表のみちから裏のみちへ」 大竹理人・加藤心彩・川瀬遼平



交流を生む防災集合住宅



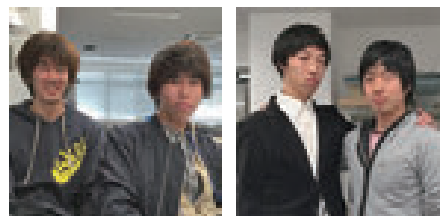
伊勢街道沿いと路地沿いに多世代が住める集合住宅「表のみちから裏のみちへ」

### (3) 白子 A 地区



## 白子 A 地区「AT-M」 現代に無き良さを求めて ～誇り高き町並みへ

伊藤彰利・内藤貴之・森山雅大・東野一星



ここ白子 A 地区は、歴史的な町家が多く残る地区である。しかし、現在は空き家・空き地・増築が増え、街並がくずれつつある。私たちは、この地区を計画するにあたり古き良き町並みを守りつつ、暮らしやすいまちづくりを目指す。そこで、歴史ある残すべき建物は残しつつ町並みを取り戻すため、新築や空き家のリノベーションの提案を行う。

#### 1. 空き家リノベーション実験住宅 『地域が見守るこどもの家』

近くには小学校・幼稚園があり、放課後や休日に子どもたちが楽しく過ごし、また地域の人に協力してもらいそろばん教室や書道教室など学びの場として利用できる空間をつくる。

#### 2. 新築実験住宅 集合住宅の提案 『マチとつながるヒトをつなげる』

町並みが残る伊勢街道沿いに新たに建てる集合住宅として、街道沿いのデザインを考えつつ、新たな住宅の形を提案する。地域のヒトとのつながりの場をつくり、さまざまなヒトとの交流を図る。

### 現代に生き良さを求めて ～ 誇り高さ町並みへ～

#### 1. 地区の特徴

白子小学校・白子の歴史  
白子の中心地区の町並りに  
由来し、177年、文政、明治に  
受け継がれ

#### 2. 伊勢街道沿いの町並み

道路に対しての交通量が多い  
歴史的景観に支えられた町並み  
町並みでは歴史的なものが残っている

伊勢街道沿い  
町並みの保全・改善

#### 3. 空き地・駐車場

伊勢街道沿いから一歩離れた道には  
空き地や駐車場、雑草が多く残っている

現状分析: 今ある町の良さと問題点  
古き町並みの良さを残すために  
伊藤彰利・内藤真之・東野一星・森山隆夫

### 現代に生き良さを求めて ～ 誇り高さ町並みへ～

#### 伊勢街道沿いの町並

特徴: 木造の建物が多く、平土の町並み、古い様子、落ち着いた色合い

現代において  
失われつつある町並み

#### 現状

- 伊勢街道沿いの交通量が多い
- 建物のデザイン
- 空間の活用が乏しい
- 無計画な増設

#### 問題点

- 景観の破壊
- 暮らしにくさ
- 空き地、空き家の増加

#### 改善提案

- 伊勢街道沿いの交通量を抑え、交通量の分散、道路の整備
- 空き地の活用
- 歴史的な建物の活用と一体的に計画を取り進める
- 暮らしやすい建物の設置

伊勢街道沿いの  
町並み、歴史的な建物がある

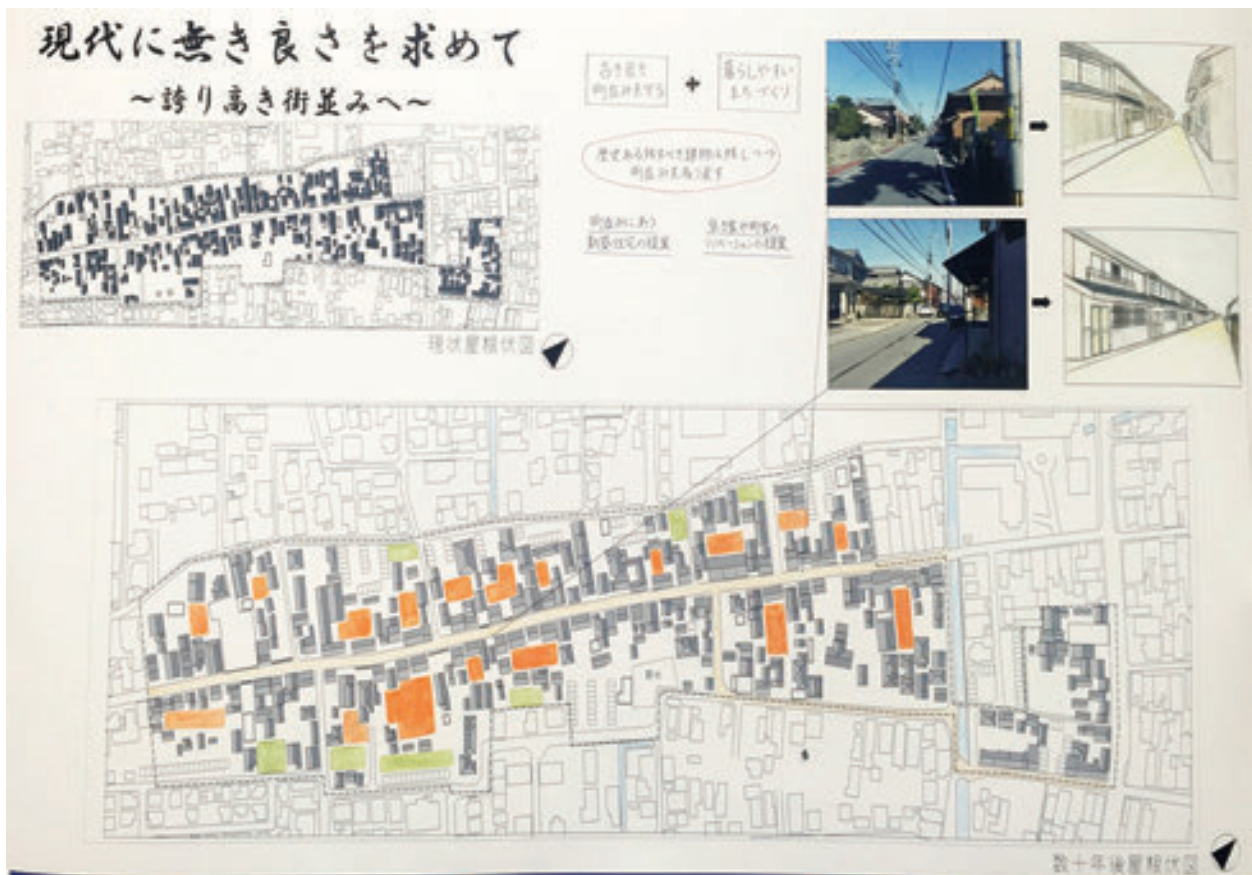
歴史的な建物、  
新しい建物がある

歴史的な建物と新しい建物  
が混在している

歴史的な建物、  
新しい建物がある

伊勢街道沿いの町並み  
新しい建物がある

現状分析・活用計画: 町の財産の活用と問題点の改善  
古き町並みを生かした住みやすい町の提案  
伊藤彰利・内藤真之・東野一星・森山隆夫



### 活用計画：屋根伏図 未来の伊勢街道沿いの提案

伊藤彰利・内藤貴之・東野一星・森山雅大

#### 地域が見守るこどもの家

##### "Before"

→ 計画・取り壊して建ちかえり

→ 計画・取り壊して建ちかえり

→ 計画・取り壊して建ちかえり

→ 計画・取り壊して建ちかえり

→ 計画・取り壊して建ちかえり

##### "After"

→ 計画・取り壊して建ちかえり

→ 計画・取り壊して建ちかえり

→ 計画・取り壊して建ちかえり

→ 計画・取り壊して建ちかえり

→ 計画・取り壊して建ちかえり

→ 計画・取り壊して建ちかえり

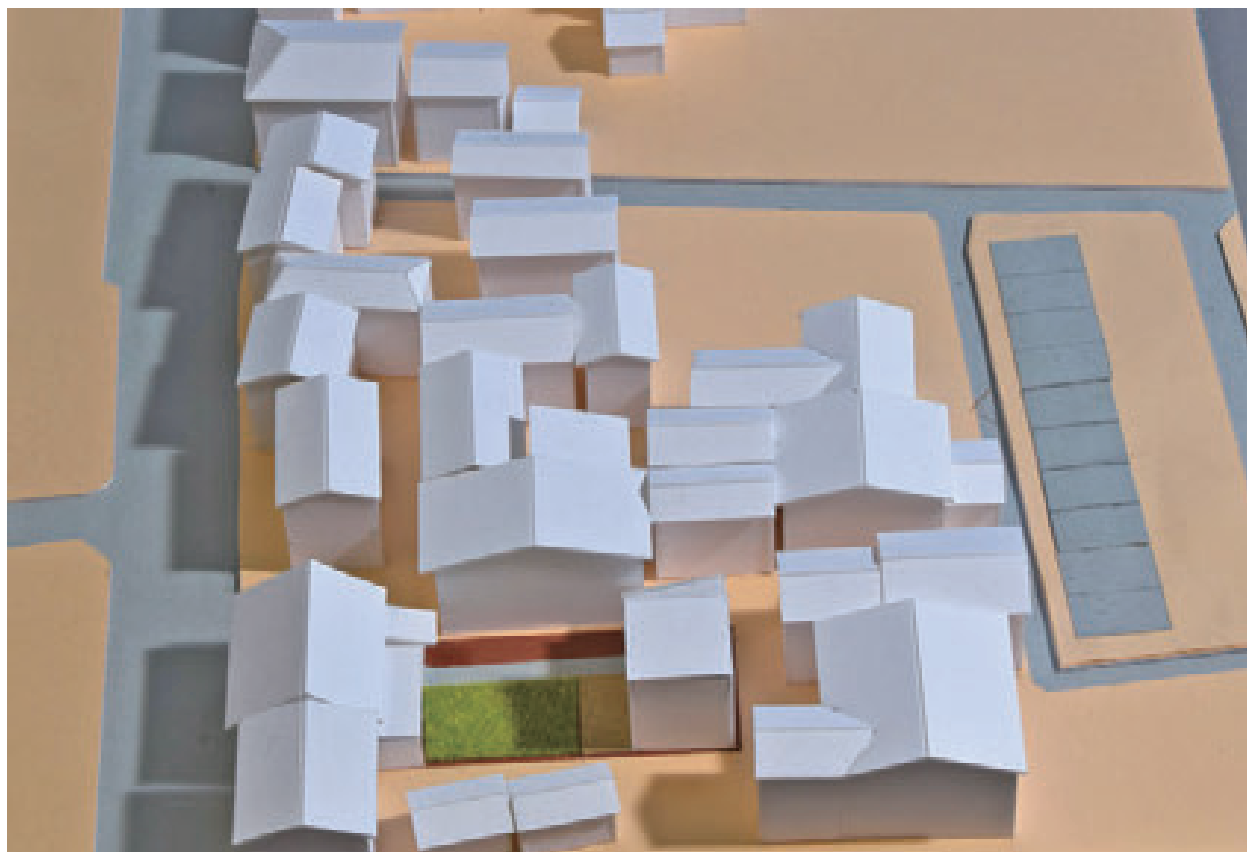
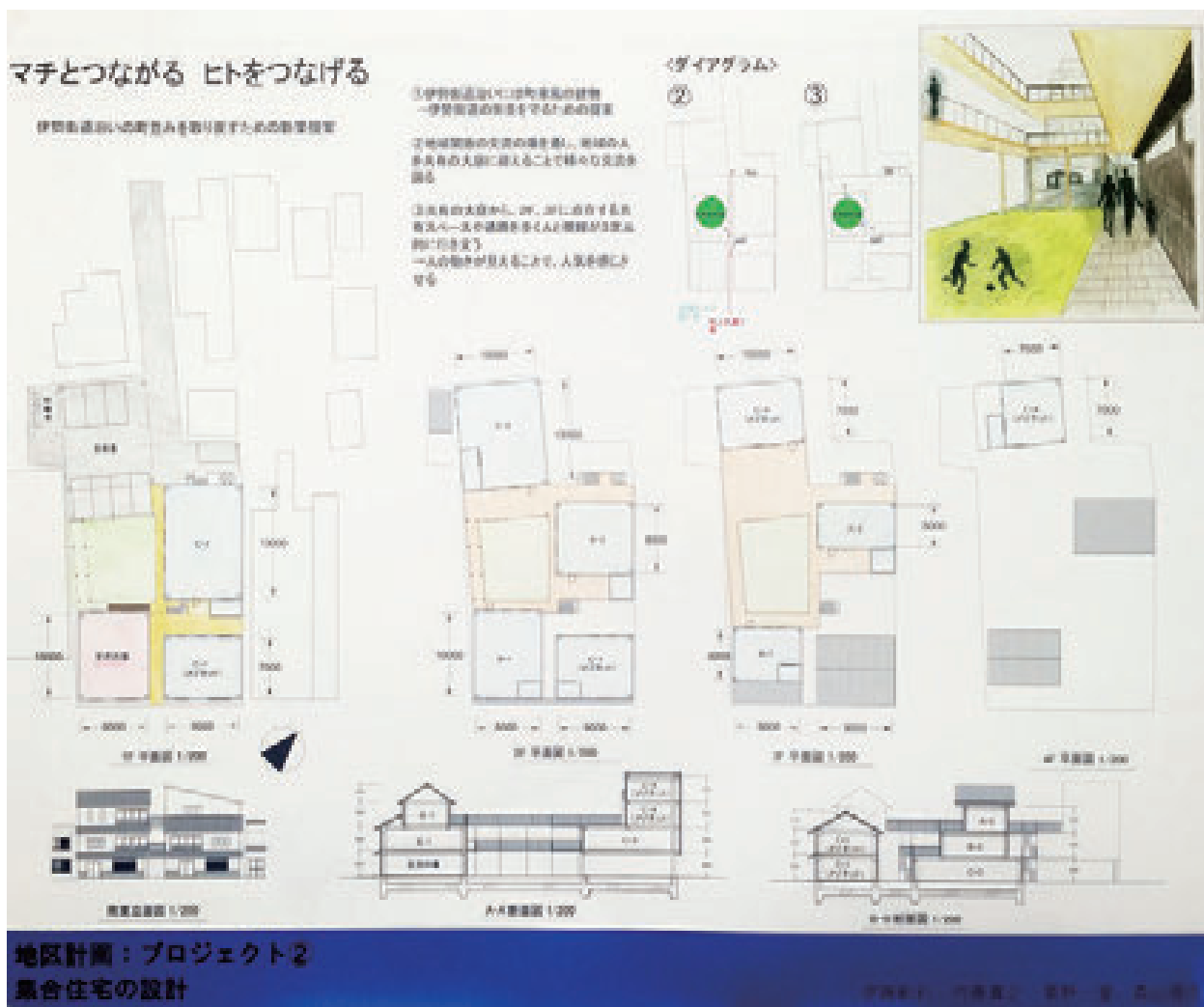
→ 計画・取り壊して建ちかえり

→ 計画・取り壊して建ちかえり

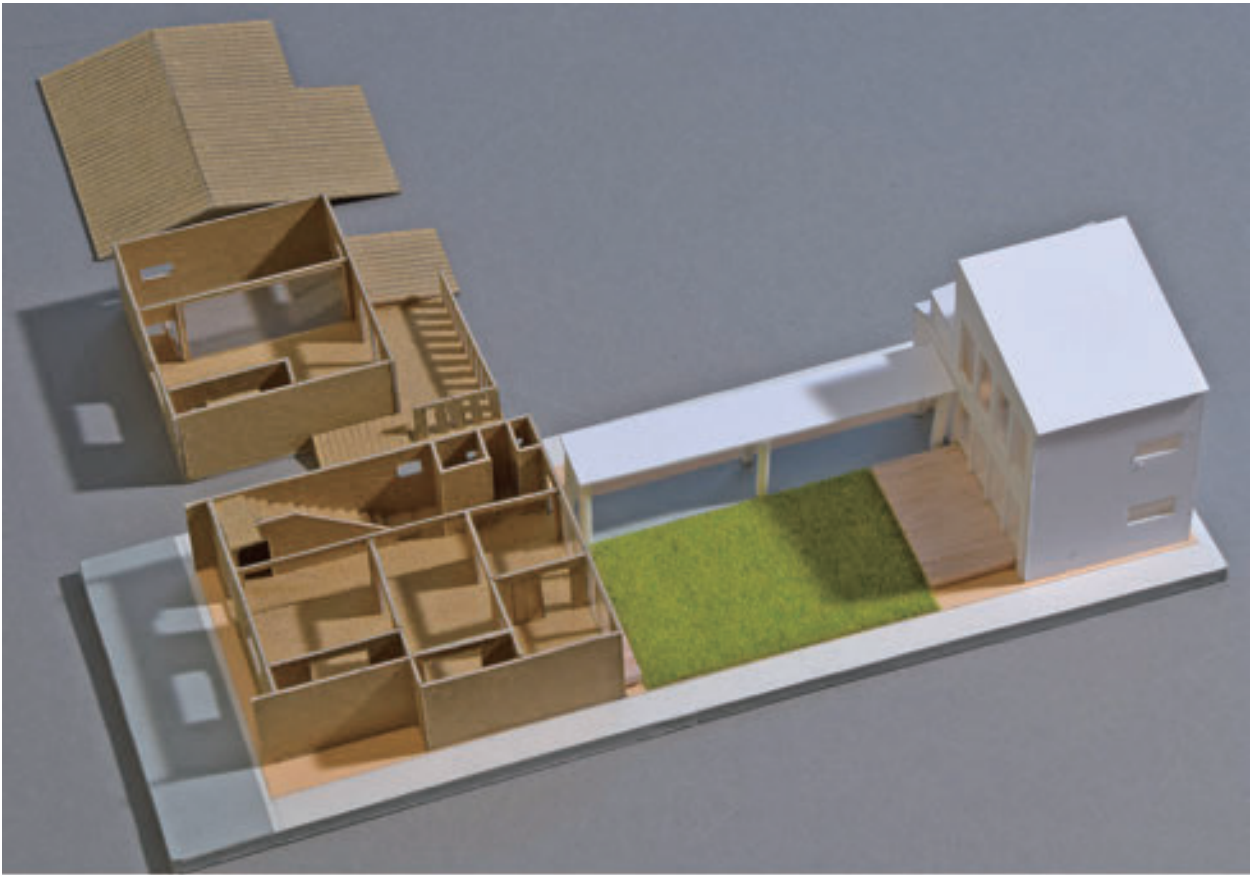
### 地区計画：プロジェクト おもちゃの家ヒロモリ 改修

伊藤 彰利・内藤貴之・東野一星・森山雅大





おもちゃの店ヒロモリ改修、街区内に共有の駐車場を整備

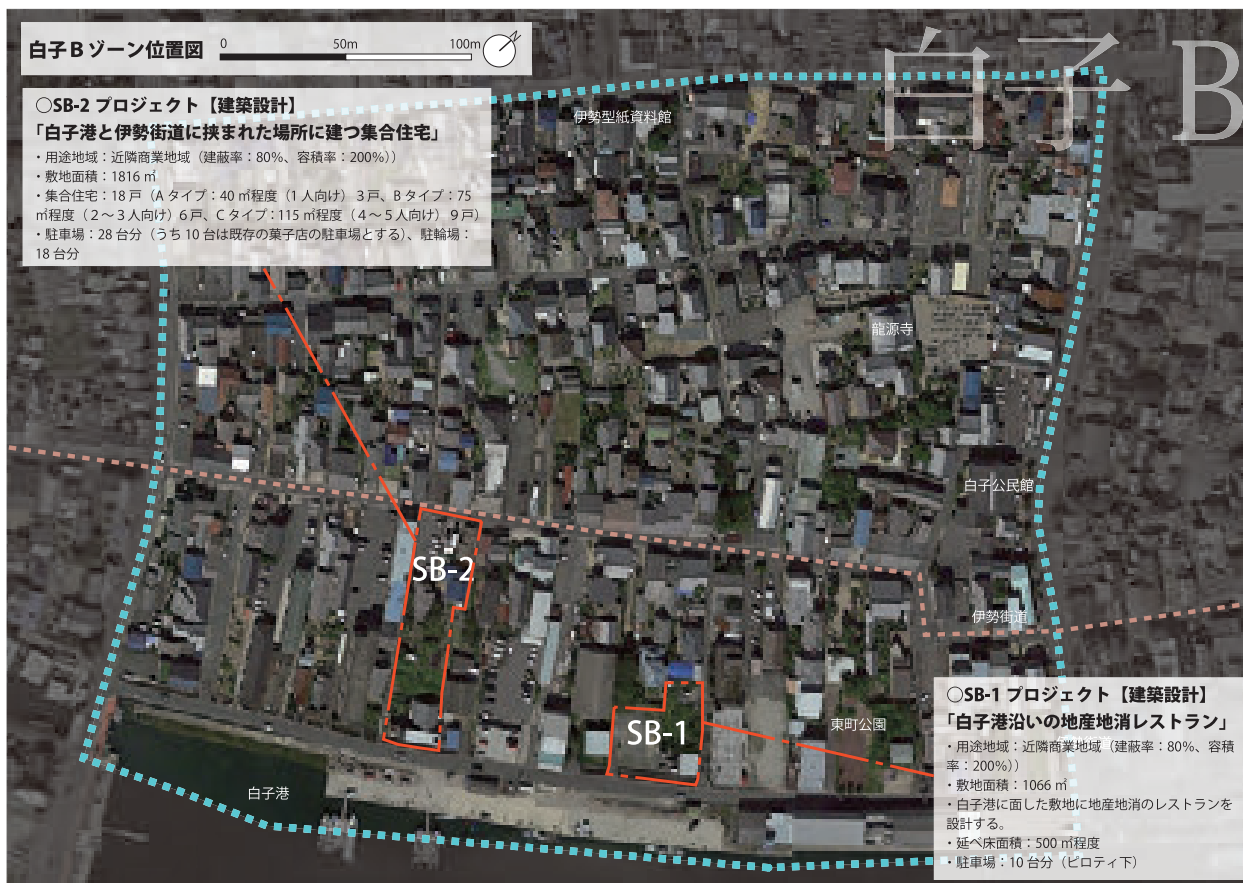


おもちゃの店ヒロモリ改修



集合住宅

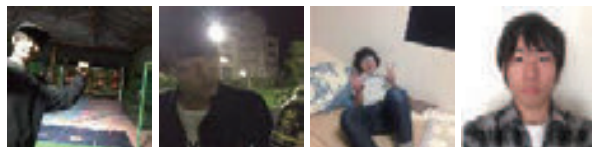
## (4) 白子B地区



## 白子B地区「Y K K」

## 路地でつながる白子の町

熊谷尚輝・近藤研人・山下祐輝・安井翔哉



白子B地区には港と歴史的町並みという2つの大きな個性がある。その2つの個性につながりがなく、町全体としての賑わいがあまり見られない。そこで私たちは、港と町並みをつなぐ2本の路地に着目し、路地に面したレストランと集合住宅のプロジェクトと合わせて設計することで、町全体に大きな賑わいをもたらし、港や町並みの魅力を最大限に活かすまちづくりを計画した。レストランは港の眺望を活かし大きな集客力をもつものを設計し、レストランに接する路地は、空き家・空き地を活用しながら人通りが多く活気のある空間にする。集合住宅は港側と街道側に2つの顔を持たせ、デザイン的にも機能的にもまちに馴染むものを設計し、接する路地は集合住宅と一体感をもたせ、室外機やガスボンベなどを隠すことで、シンプルで落ち着いた空間にする。

港+街道

海と街道のそれぞれの魅力を大きくすると同時に、二つのあいだの距離を小さくして、人を引き込むものにすることで、先住の定住者よりも大きな魅力が生まれていく。



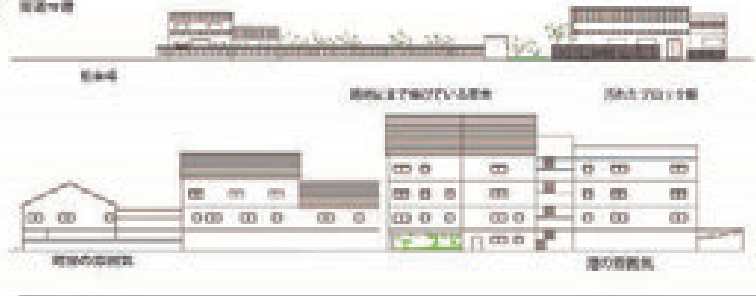
原簿状世帯 1100

- ① 空き家を改修し、伊勢型伝統料理と連携し、インテリアの展示・体験の場を提供する。アートの一角も果たせる。
- ② レストランと別の空き家に採られている空き家を改修し、公園を設置する。
- ③ 水と海までの距離感を短縮し、海側の景観を損なわずに、自宇に設計したような経路スペースを確保する。

路地 集合住宅

集合住宅・併用住宅を配置し、地元民が使いやすい街地にする。

C 南→北



D 西→東



88-2 プロジェクト：路地でつながる白子の町  
活用計画

熊谷卓郎・近藤研人・山下祐輝・安井雅哉

港+街道

海と街道のそれぞれの魅力を大きくすると同時に、二つのあいだの距離を小さくして、人を引き込むものにすることで、先住の定住者よりも大きな魅力が生まれていく。



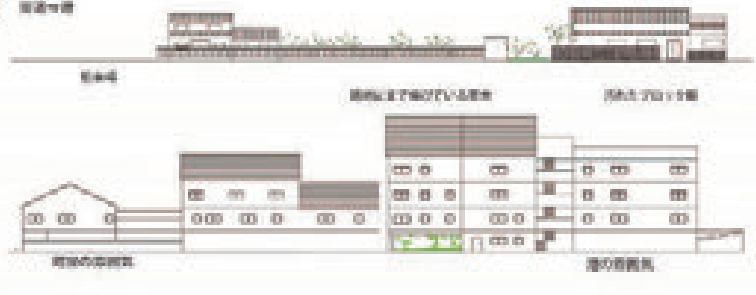
原簿状世帯 1100

- ① 空き家を改修し、伊勢型伝統料理と連携し、インテリアの展示・体験の場を提供する。アートの一角も果たせる。
- ② レストランと別の空き家に採られている空き家を改修し、公園を設置する。
- ③ 水と海までの距離感を短縮し、海側の景観を損なわずに、自宇に設計したような経路スペースを確保する。

路地 集合住宅

集合住宅・併用住宅を配置し、地元民が使いやすい街地にする。

C 南→北

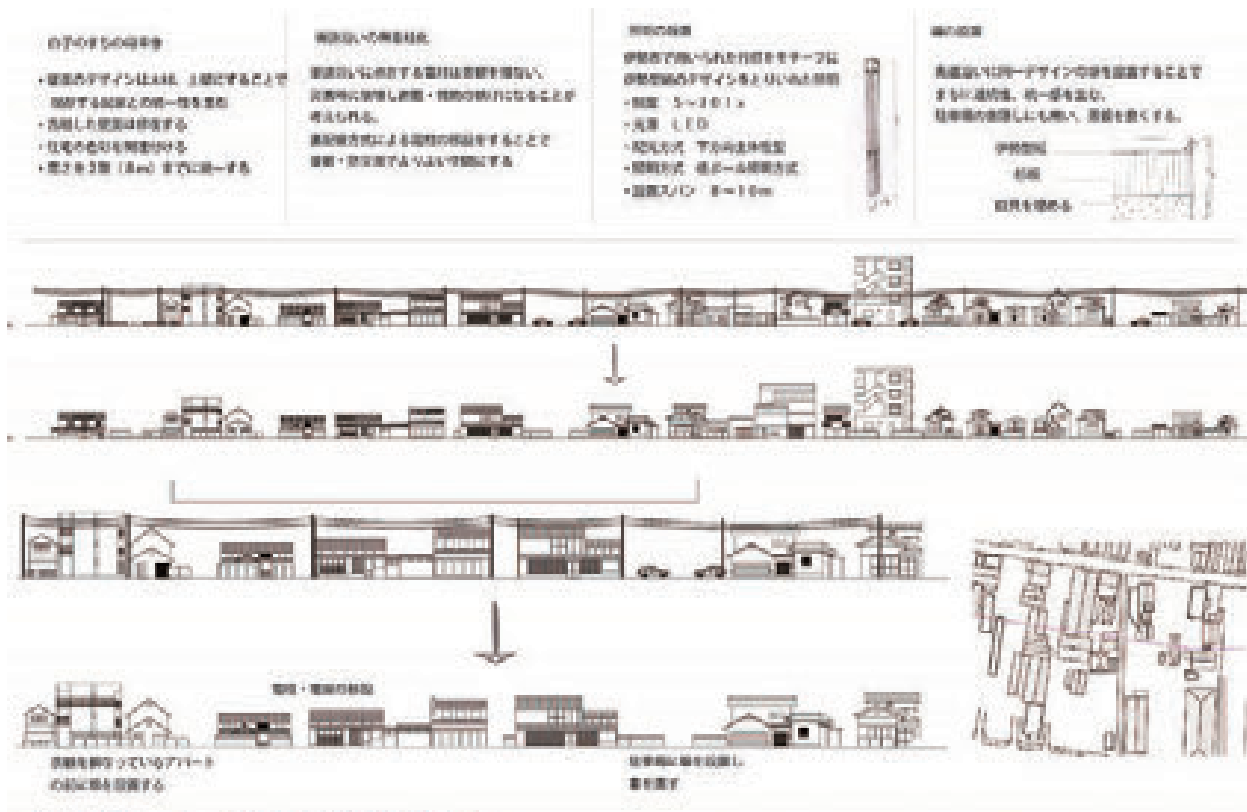


D 西→東

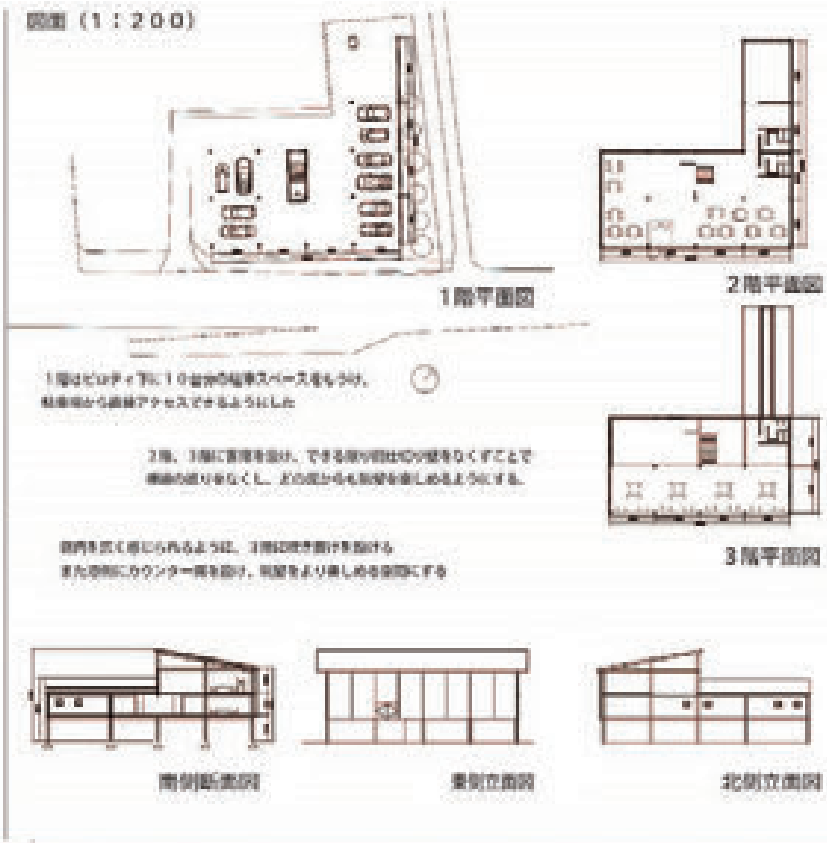


88-2 プロジェクト：路地でつながる白子の町  
活用計画

熊谷卓郎・近藤研人・山下祐輝・安井雅哉



SB-2 プロジェクト：路地でつながる白子の町  
連続立面図  
松谷尚輝・近藤研人・山下祐輝・安井翔哉



SB-2 プロジェクト：路地でつながる白子の町  
MINATOレストラン～白子港を一望する～  
松谷尚輝・近藤研人・山下祐輝・安井翔哉

### 設計趣旨

海濱と海に囲まれているという立地を活かし、海濱街と遊歩それぞれの個性を持った二個性がある集合住宅を設計する。両サイドの町並みにデザイン面でなじませると同時に、商業的にも活用できるように工夫を加える。また、今回の計画の趣旨にも通じているので、敷地をより使いやすいために歩道の幅を拡大させる。



### SB-2 プロジェクト：路地りつながる白子の町

2つの個性を持つ集合住宅

関谷尚輝・近藤研人・山下祐輝・安井雨京





集合住宅

## 白子B地区「Shiroko Landscape Designers」

唐澤冴佳・竹内貴洋・中島慶介



私たちは、実地調査を通じて白子の持つ資源と問題点を調査し分析しました。その結果、白子のまちづくりを「減災」、「景観」、「賑わい」を三本柱として計画しました。「減災」の取り組みとして伊勢型紙を用いた誘導灯の設置、防災ガイドラインの設置、「景観」の取り組みとして景観ガイドラインの設置、緑地の整備、「賑わい」の取り組みとして堤防沿いの歩道の整備と、そこでの朝市開催を計画しました。

中でも力を入れたのが、夜間時の避難のための目印となる伊勢型紙を用いた誘導灯の案です。様々な場所に設置出来るように四つの形態を考えました。伊勢型紙を用いる事で、誘導灯としてだけではなく、あたたかい雰囲気のマちなみを作り出します。

建築計画としては、伊勢街道と堤防に面する集合住宅をまち全体へと広がるアクティビティの始点として計画しました。また、白子湾を臨むレストランはまちのコミュニティが生まれ、白子を知ってもらおうきっかけとなる場所として計画しました。

## SHIROKO まち PROJECT

SHIROKO まち PROJECT

SHIROKO Landscape Designers 唐沢牙住 竹内貴洋 中島慶介

SHIROKO まち PROJECT

SHIROKO Landscape Designers 唐沢牙住 竹内貴洋 中島慶介

## 30年後の白子

30 years later Shiroko

SHIROKO まち PROJECT

SHIROKO Landscape Designers 唐沢牙住 竹内貴洋 中島慶介

30年後の白子  
30 years later Shiroko

SHIROKO まち PROJECT

SHIROKO Landscape Designers 唐沢牙住 竹内貴洋 中島慶介



### 景観ガイドライン

#### 環境

##### A. 道路側緑化率の決定

道路側に緑地を設けることによる街並みの向上を目的としたもの。  
 <概要>  
 道路境界より2m以内の位置に  
 敷地面積の割合 (㎡) >0.5 (㎡) ×1.0以上の緑化を義務付ける。

ただし、歴史的建造物、特に町屋建築においてはプランター型の緑地面積を水平投影面積と同等のものとし、緩和する。

種別	緑化率(%)	緩和率(%)
1 住宅	100	50
2 店舗	100	50
3 雑居	100	50
4 事務所	100	50
5 その他	100	50

##### B. 緑地の整備

あき地を積極的に緑地へ変えていく。  
 特に、公園等の目的の公共性の高い場所や住宅の密集地などのあき地を緑地にすることで、よりよい住環境を作り出す。





現状 連続立面図 1:200  
 将来 連続立面図 1:200  
 現状 連続立面図 1:200  
 将来 連続立面図 1:200

SHIROKO まち PROJECT

Siroko Landscape Designers 唐沢淳佳 竹内貴洋 中島慶介

### 伊勢型紙を使った誘導灯

#### 環境

##### 伊勢型紙を使った照明の例

目印となるだけでなく、雰囲気の良い街並みを演出する。







スタンド型 吊り下げ型  
 埋め込み型 貼り付け型





1. 神楽の舞台の受け皿地域  
 産の賑わい型内陸部に沿って安全である。市では、白子町の住民は、白子中学校、旭が丘小学校、市立体育館を神楽舞の遊樂場として整備している。
2. 安全に遊歩するには  
 白子地区の遊歩経路は上記のようになる。よって、この遊歩経路を夜間にも把握するための光を提案する。
3. 光の配置と効果  
 主要な道だけでなく、細い路地にも灯をつける。夜にももっているため町の風景の向上や朝陽にも役に立つ。

SHIROKO まち PROJECT

Siroko Landscape Designers 唐沢淳佳 竹内貴洋 中島慶介

### 防災ガイドライン

1. 3. 3. 3.

#### 空き家・空き地と津波浸水範囲

津波浸水範囲の表示

- 浸水1.5m以上
- 浸水1.0m以上
- 浸水0.5m以上
- 浸水0.2m以上
- 浸水0.1m以上
- 浸水0.0m以上

1. 津波浸水範囲の高さが2~3m以上（黄色色のゾーンまたは緑色のゾーン）の地域に関しては居住を制限せず、地域の活性化を促進（黄色の丸）、文芸的付帯に駐車場（青丸）をつくる。

2. 2m以上の浸水が予想される地域の住人には、より安全な地域に転居してもらう。そのために、津波予定の緊急避難所への入居を補助、比較的安全なゾーンにある空き家への入居や白子地区にある地の購入のための補助金制度を設定する。

### 歩道の整備

海沿いの歩道は海産物のマルシェ、建設予定のレストランなどが計画されており、賑わいの拠点である。

しかし、現状の歩道は車道が多く歩道がないため、歩行者にとって非常に危険である。

そこで、場所における歩道の幅員を確保する。また、歩道の幅員が狭い部分では歩道の幅員を確保し、幅員の確保が難しい場合は、歩道の幅員を確保し、歩道の幅員を確保する。

## SHIROKO まち PROJECT

Shiroko Landscape Designers 鹿沢牙佳 竹内貴洋 中島優介

### レストラン しおかぜ

白子の新しいレストランは、まちの賑わいになります。

白子の古き良きコロニーは徐々に再生され、まちが再び賑わいます。

そこで、テラスを確保し、上層部分に設けることで、このまちの人たちが気軽に立ち寄りコロニーが再生されるような空間を創出しました。

また、柱と柱で設置する階段を設けたり、海を眺められるように、白子のまちを観光できる街を設けたりすることで、まちの賑わいになる空間が出来るレストランにしました。

建築士プロジェクト「白子地区の復興拠点レストラン」

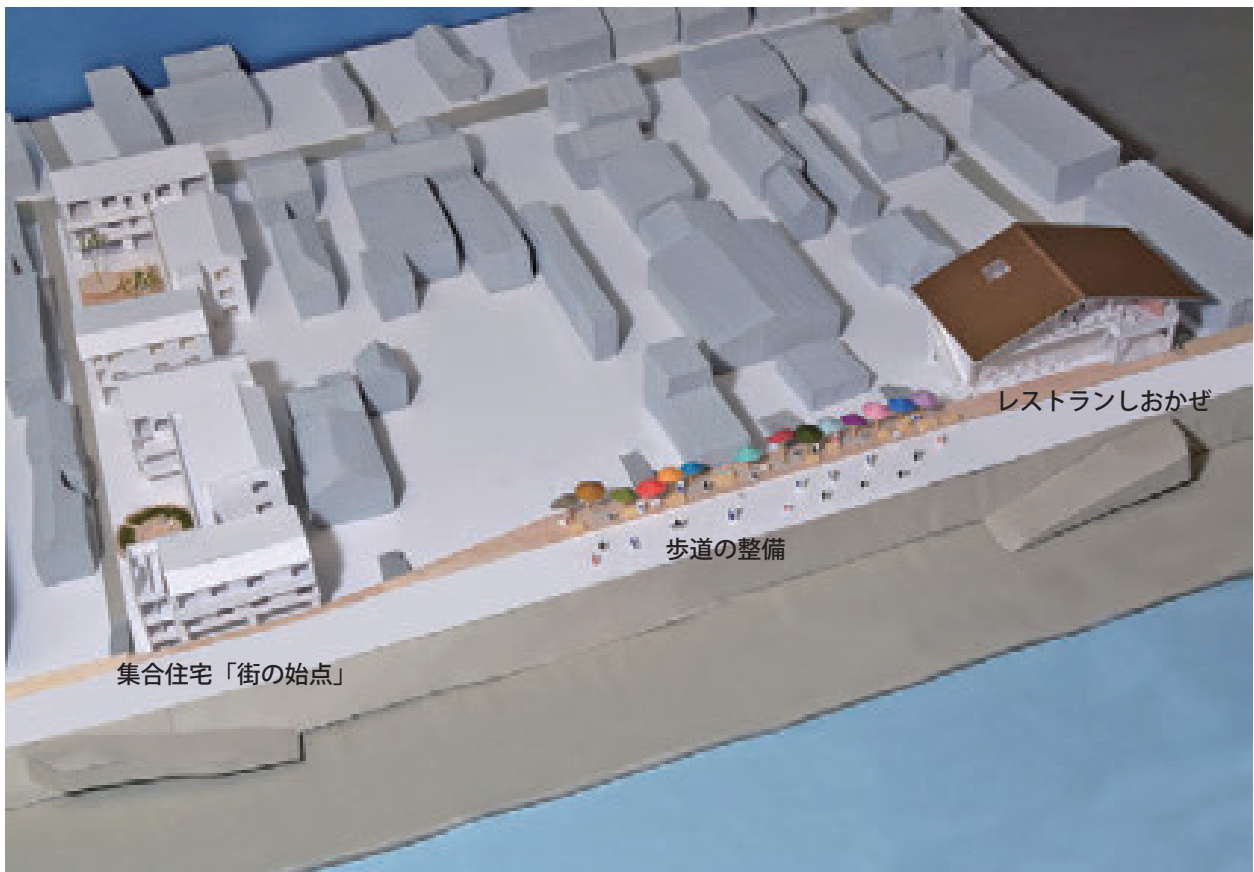
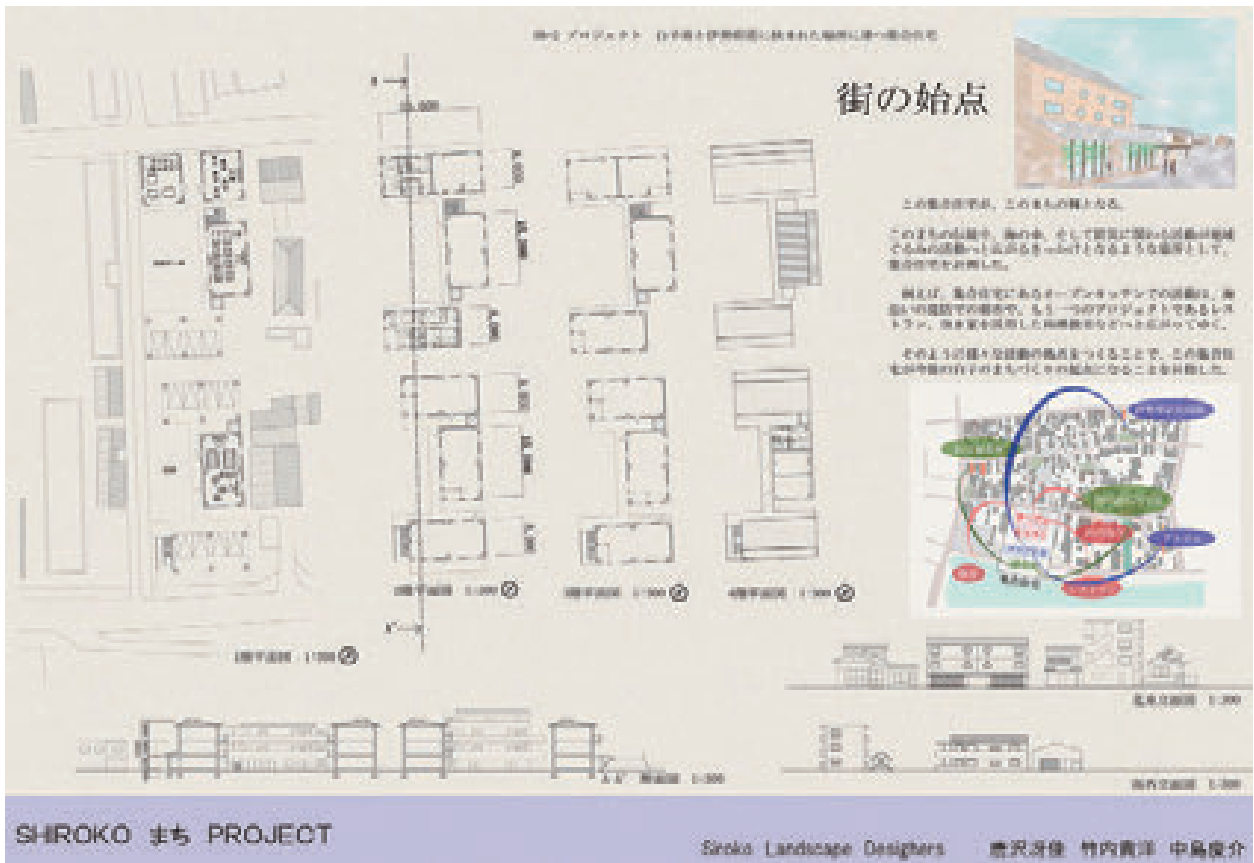
1階平面図 1200

2階平面図 1200

3階平面図 1200

## SHIROKO まち PROJECT

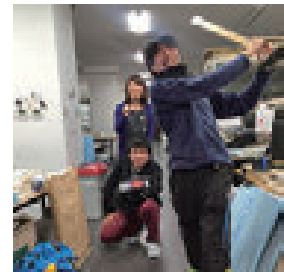
Shiroko Landscape Designers 鹿沢牙佳 竹内貴洋 中島優介



## (5) 江島 A 地区



## 江島 A 地区「SeaSide」 職人と人をつなぐまち



瀧本颯・濱口葉・松島孝侑

近鉄白子駅から海側に進んだ場所に位置する江島 A 地区は、伊勢街道沿いに古い建物と新しい建物が乱雑に並び、多くの駐車場が街道に面しているため町並みが崩れている。また昔ながらの町家を中心に空き家となっている建物が多く、どこか物寂しさを感じる。そこで本計画では2つの観点から地区を整備し、にぎわいのあるまちづくりを行う。

### ○ものづくりのまちとして活性化

ソフト面からのにぎわいづくり策として、江島 A 地区に手仕事や芸術などの技術を持った職人を呼び込む。その職人が地区で店舗や工房を開き、体験教室を行うことでものづくりのまちとして地域外からも人が訪れる。

### ○地域内の性格を生かす

伊勢街道沿いのにぎやかな雰囲気と、路地へ入った際の落ち着いた雰囲気をまちづくりに反映させる。伊勢街道沿いの店舗内で活動する様子が街道から見えるようにすることで、にぎやかさを感じる。駐車場は海側に集約し、街道の交通量を少なくする。

まちの30年後の様子



EAゾーン 将来の江島A地区  
「職人と人をつなぐまち」

瀬本誠・濱口葉・松島孝信

まちの現在の様子

**活用したいもの**

- 街並みから店内の様子が見えやすい→1
- 道路が狭まっている区画の活用→2
- 日影対策を考慮したカフェなど種別活用→2
- 歩道広道、2階オープンスペースを設けて開いた事務所→2
- 街並みから続く路地は細く探検しているような気分になる→3



**改善したいもの**

- 道路に面した駐車場が多く対応力が限られている→1
- 街道は仕入れのトラックなども通り交通量が多い→1
- 車が生え死んだ空き地→2
- 路地でも人通りが少なく物販しにくい状況の路地→3
- 道路が狭く路上駐車もあり危険→2

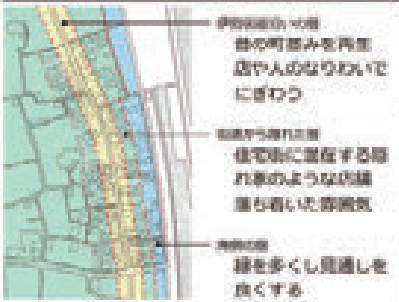


EAゾーン  
現状分析

瀬本誠・濱口葉・松島孝信

整備目標・計画

1 南北方向に3種類の層に分ける



整備計画

伊勢街道沿いの層

既存する商業を積極的に活用して活用する。  
水辺から遠く離れた層の層手も活用を多く、人が集まれるようなファシリティ  
に活用可能な層とする。  
店舗は賑わいを生かすイベントの活用も行う。  
商業利用の一般地活用とする。

街道から離れた層  
既存の住宅等を活用し、街の賑わいから活用可能な層とする。  
既存の人の集まる層を積極的に活用する。  
既存の商業利用の一般地活用として活用する。

水辺の層  
緑の活用を積極的に、商業利用を促して活用可能な層とする。  
水辺の層を積極的に活用可能な層とする。

2 点在する魅力資源を活用する



整備計画

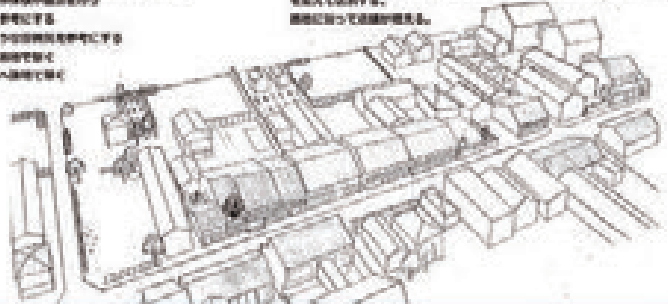
既存一もよがるる資源を生かした活用する  
既存店舗や施設などの内蔵を活用できる層として活用する  
既存の資源や一層の活用可能な層や既存の層や  
既存層一層への活用方法を参考にする  
コアコアコア一層の活用可能な層を参考にする  
伊勢街道と活用可能な層  
既存層一層の活用可能な層へ活用可能な層

3 伊勢街道と魅力資源を繋ぐ



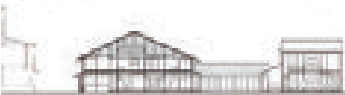
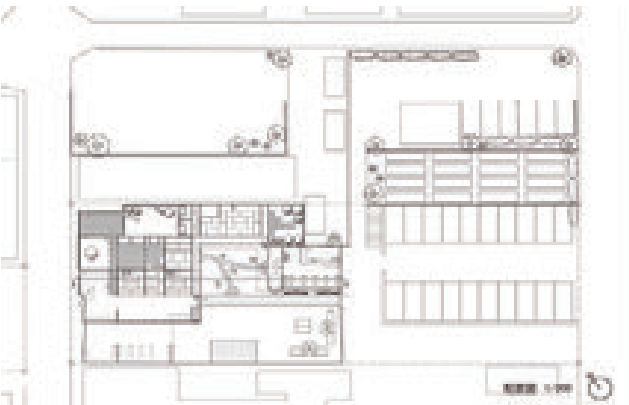
整備計画

伊勢街道から離れた層の内蔵の活用可能な層として活用する。  
既存の層の活用可能な層と活用可能な層と、既存層一層と活用可能な層の活用  
可能な層へ活用する。  
既存層一層と活用可能な層へ活用する。



EAゾーン：活用方策の提案  
「街道と路地から広がる」

源本誠・濱口眞・松島孝信



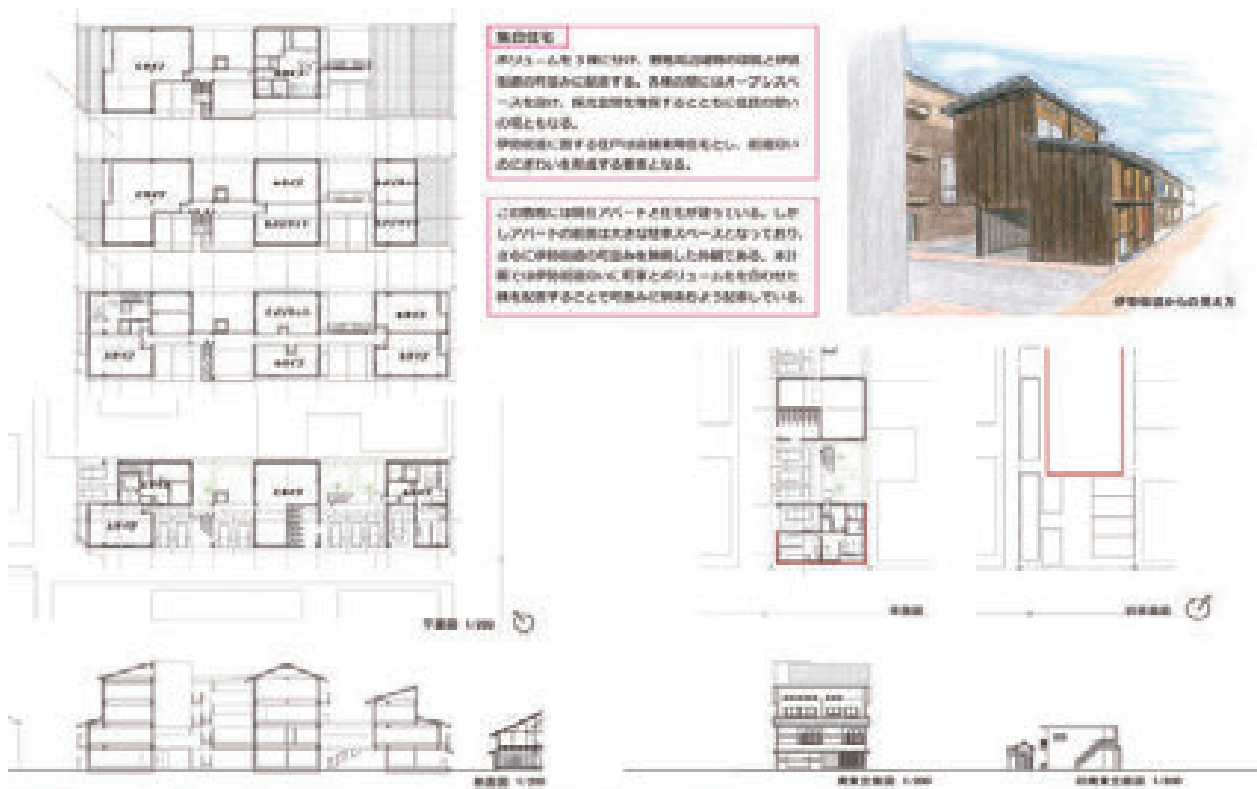
伊勢街道沿いの層

既存する商業を積極的に活用して活用する。  
水辺から遠く離れた層の層手も活用を多く、人が集まれるようなファシリティ  
に活用可能な層とする。  
店舗は賑わいを生かすイベントの活用も行う。  
商業利用の一般地活用とする。



EA-1プロジェクト：廻船問屋の空き家伊達家を歴史交流拠点に  
「過去と現在を繋ぐ」

源本誠・濱口眞・松島孝信



**E A-2 プロジェクト：伊勢街道沿いの建替えモデルの設計**  
 「うなぎの寝床における集合住宅のあり方」  
 坂本誠、濱口真、松島孝博

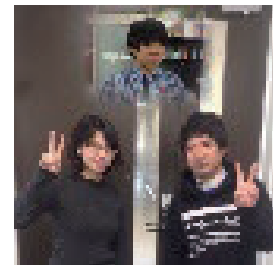


伊勢街道沿いの建替えモデル

## (6) 江島 B 地区



### 江島 B 地区「はとぽっぽ」 街のひろば、広場のまち



青山瑶子・平山進也・村松研登

かつての江島は伊勢街道として栄えていたが、現在の江島にはその華やかさが薄れている。街道沿いの町並みも崩れ、かつての雰囲気を感じるの難しい。

そこで、私たちは旧伊勢街道沿いの2つの十字路に広場を整備し、街全体と連携して、失われつつある江島の魅力を引き出したいと考えた。江島の歴史をふまえながら、住民にとって憩いの場所となる広場を、また、通りがかった人が思わず足を止めたくなるような街を計画した。

八百彦広場は、八百彦を中心とする交差点を人々が安全に買い物し、くつろげるような賑やかな場所になるように計画した。この広場は、朝市と関連づけたイベントや、空地と連携しながら食と農をきっかけにした地区の人々の交わりを生む。

菩薩広場は、かつて「北の端地藏」とも呼ばれた六体地藏をこの地区の歴史的に重要なものとしてとらえ、六体地藏を中心とするかつての街道沿いの雰囲気が感じられる場所となるように計画した。この広場は、普段は集会所や駄菓子屋を訪れた人々が休むことができ、祭りの際には屋台が並び山車が飾られ、江島の歴史を感じることができる。

これらの広場を様々な方法を用いてつなげ、街が一体となるように計画した。

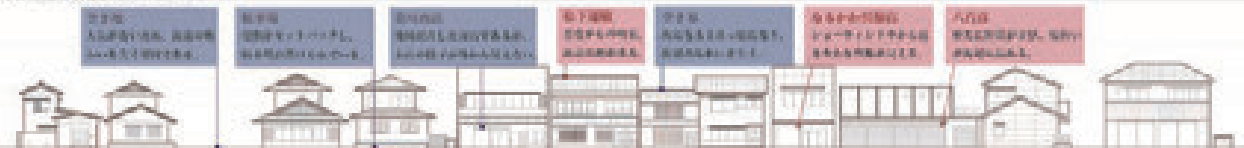


## 江島の今

### ◎現状◎



### ◎and 街道沿いの面割



写真とプラン  
「街のひろば」の位置を示す

岡山大学・まちづくり・まち歩き部

### ◎近所状況



### ◎江島のイベント



### ◎現状の問題

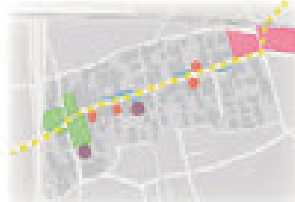
住民の意識感が弱まり  
行事が縮小  
交通量が多く歩行者に  
とって居心地が悪い

伊勢街道の雰囲気  
薄れている  
人口流出に伴う  
空き地、空き家の増加

## 街を繋げる手法

### ◎街道の整備(1)

**先に知らされる旧伊勢街道**  
もともと道幅を狭くするよりも、街道沿いの歩道を拡張する。旧伊勢街道の拡張をもとに、街のひろばを拡張して活用を促す。



### ◎街道の整備(2)

**かつての街並みを再生する**  
街道沿いは過去に建つ空き地が多く、現在は荒れている。そのような場所に、緑を植えることで街並みに統一感をもたせ、かつての街並みの雰囲気を醸成することができる。

### ◎空き地の活用

**にぎわいを創らせる**  
人口減少が進む中で地域の子どもたちを積極的に街を創る。それを大人がサポートすることで地域の人口の交流を促す。集約型の空き地はイベント開催として活用し、イベントを開催することで住民などが集まりかつての賑わいの雰囲気を創る。

### ◎空き家の活用

**街並みの「穴」を埋める**  
空き家は街並みの穴を埋め、街並みの街並みがくずれている状態を改善する。そこで、空き家をリノベーションし、街並みに合わせて活用する。それにより、空き地による街並みの「穴」を埋めることで、かつての賑わいの雰囲気を醸成させる。

### ◎30年経った様子



### ◎街道沿いの整備計画



写真とプラン  
「街のひろば」の位置を示す

岡山大学・まちづくり・まち歩き部

食と農を通して人々がつながる

昔ながらの八百彦さん、八百彦がある場所であり、買い物に訪れた地域の人々が交わるきっかけを生む広場を設計する。昔は、買い物客や家の学童園にやってくる住民の休憩スペースとなり、朝市の際には、イベント広場でお野菜カフェ主催のビュッフェが振る舞われる。

○アイストップ

クラシカルな交差点はこの街道の特徴であり、アイストップにあたる場所に八百彦、休憩スペースを設けた。

○街道のクラシカルな佇まいを再現

広場を2種類の石畳にし、街道のクラシカルな佇まいに際立つよう工夫した。

○朝市の際の広場の活用

八百彦のある広場にはイベントスペースを設けた。また、その向かいの広場には本館で休憩できるスペースを作った。



図1 プロジェクト：道路のクラシカルな佇まいを活かした建替え「ゆるゆるは、広場のまち」

青山理子・平山達也・村松研哉



八百彦広場

## 菩薩広場

### かつての街道の趣を感じる

大塚地区古蹟のあるお祭りある場所であり、その歴史が感じられるような広場を設計する。古蹟は旧町並みの趣を感じられるよう、お祭りの賑わいを感じられるように設計する。

#### ○アイストップ

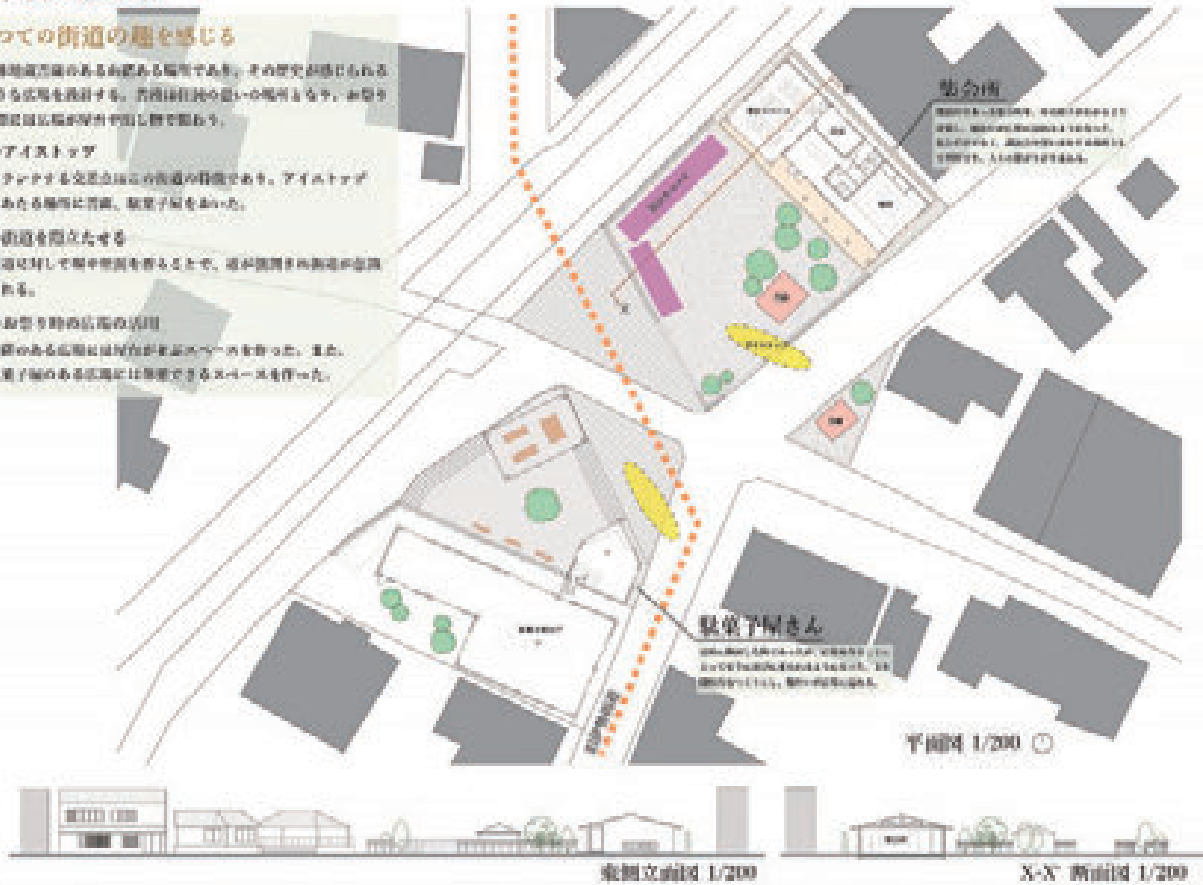
テラスのある交差点はこの街道の目録であり、アイストップにある場所に古蹟、駅菓子屋を配置した。

#### ○街道を開いた

街道に対して開かれた空間を創出することで、道が開かれた趣を感じられる。

#### ○お祭り時の広場の活用

古蹟のある広場はお祭りがあつたついでを考えた。また、駅菓子屋のある広場にはお祭りできるスペースを考えた。



設計プロジェクト：大塚地区のまちづくり広場の整備  
「まちのふらび、広場のまち」

青山浩子・平山謙也・村松安博



菩薩広場



白子公民館・三重大学都市計画研究室共同研究  
「海・街道・史跡を活かしたまちづくりデザイン 2015」  
報告書

2015年12月28日発行

編集・製作・印刷 三重大学大学院工学研究科建築学専攻 都市計画研究室  
〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577  
TEL：059-231-9477（直通）

製本 合資会社 黒川印刷  
〒514-0008 三重県津市上浜町2-1-1  
TEL：059-226-4877

